# 俳諧一義集

三

# 俳諧一葉集附合之部三

古夢庵佛考 編
幻窓湖中 校
坎窩久臧 校

元禄二己巳

蕭蕭そくふハ雪ふるの音ハ　翁
吹ふけるまの雪　花　嵐雪
物ゝ鳴　帰ゝ鳴野さハ立て　い
七輝　山を　むこうる　月　翁
町迄ゝ　軍の　焦ゝ　砂ゝ　い
雪　雪ゝ降ゝ　ゝ降ゝ　面　雪

坊主ともいとなく追ひ出し
土の餅つく神事おこなひ
生簀に極付きの市とも
り賞と踊つ松ちきりつみ
去角乳坊ふく食をつぶむ
ふくとにて角をようこう眼鏡
舌根に念仏を唱へる尼衣
小珠八幡の中にはりあり
杖をもち生涯に祝上をあり
賜行不伝や賜杖の月
武士に坊根ぬうの氣布
頂巻ぬぬふ物のふ一き

翁
雪
翁
雪
翁
雪
翁
雪
翁
雪

多の長さ尺法まきを
ひりみのうつ桶の長を取
紫垣の古木八破まきう
法とちん立杖八くろ
手ちまのさのしをる秋の風
髮きる青世月ひのめく
長門ちの踊の嘶社松四一
粥に玉ちの生行と吟くれ
山茶ひの塚を他樹樹
をちに蔵をくノ貴ちる
やちちん大江の岸八八形
削角ちり杖笠の墓

翁
雪
翁
雪
翁
雪
翁
雪
翁
雪

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

菊
重
菊
重

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

菊
賀良
嗜山
此筋
良
菊



[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

筋
山
菊
良
山
筋
良
菊
嵐葉
山
良
葉

[illegible]れ鳥鍋　菊良
[illegible]あちのもの　山
[illegible]の鍋　[illegible]　菊
[illegible]吹　[illegible]　菊
[illegible]星角煮　菜山
[illegible]の鍋　良
[illegible]の小皿　加鯛
[illegible]物　菊
[illegible]　菜
[illegible]の角　竹山



[illegible]酒盃の[illegible]
[illegible]の[illegible]物　良
[illegible]をさけて　菜
[illegible]の[illegible]焼　山
[illegible]　鯛
[illegible]　竹

[illegible]翠桃等
[illegible]の[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]　翠桃
[illegible]の[illegible]　賈良
[illegible]の角　菊

良　枇　梅　翁　良　枇　翁　良　枇　梅　翁　良　枇　翁

良　枇　梅　翁　良　枇　梅　翁　良　枇　梅　翁　良　枇　梅　翁

等の繁八橋の流れ清し　菊里
舟を陳て仏人繁うる
ふる又新らをあむ石の上　菊
屋付きつきに呉のすう舟　梅
夏すちも世をつくる杜宇　良
かすかの人の人と枝る九葉　梅
花の名残を惜む雑色
姉さくといつこ火燈をまし　桃雪
一業　梨事
ふる又新らをあむ石の上　菊
米とぶちふる陸のまつ浪　二寸
旗のふれ和こうとくしし蘇う　曾良



松くの風特を物千さつく　翅梅
ぶつ一ふ仏を花と菊をく　秋鴉
除生もふれるまのつこすう　桃里

四月廿二日

風流の供のわ松くの田植歌　菊
霞多多を打て家まつけ等　等躬
小せ記て屋敷の石や寸ちん　曾良
蕨手陳の寿いうすう　菊
一業一ふ月ふ等ふ川柳　躬
庭上屋根ふくく村ふ秋ふ　良
蛛の女ら上絵ふ仏ふ等を酌て　菊

女房などのしやとほむ物　彩
あり附ハ袴をもいきの入めるむ　良
樗の小枝を折をを隅さ　菊
うゝみて八嫁う畠の花を惜し　彩
雲陣　山や白髪おさうけ　良
風ゆう八軍を送る軍こ来こ　菊
秋き主る月と物よゝし信　彩
文る歌の弾つゝ破る麻の角　良
畠のおかの注ふきる月　菊
いろくの彩をもる篇あて　彩
北一き月をはふく糸越　良
山る社尾をく手やむゝ　菊

芹　源さうゝ清をつめゝ　彩
蓼にく雲を一筋の活あて　良
相のゝ武士の名義る　菊
華ゝゝぬ義の芸合　彩
富士百姓ゝ名をつゝ　彩
多枕をおを財をさ入て　良
何中事れたぬ七夕　菊
住多る御の材れ自を尺よ　彩
すゝき希ゝむ山畠の数　良
切櫻枝ゝにゝ弾ゝ　菊
古山鶴の参てさゝ　彩
涙ゝや酒やをくゝ　良

数生石社心そうの名
花をきてるう松ぬりを等やさく　彩良
酒のまうひのさもつまこ風　菊
六十の坂こう人の西方あれ　彩良
蕎麦食するあめ少細うさふる

素門有伸の句八雲の本ぬりと発を
むすんで
菊

かうれ花やや月をぬ花と汗の栗　栗扇
すれうう巻ぬとうとの巻　等彩
きう崩す山の野ぬ名ハをふれて　蕎良
時代ぬする石の補く

把くう吉栗こう角の蕎こう　等雪
秋きう魚ぬ縄瓜をふれく　次竿
梓弓矢の羽ぬ家をかをうをく　素葉
新蕎をよ炭ぬ焼の蕎　菊
松宵金ぬ吹弱くう季の蕎　富
風の遺恨をしふうを通ふし　彩
鉾入ハ浮ぬ沈ふくも聊き　良
されておくれる蕎情の秋　雪
蕎をを神ぬしびうぬ抜きよ　竿
角のふうを時ぬしびうる　葉
猪きふ沈魚弱うの宇漁寺　彩
笠の端をすう芦のうう枯　富

梅干かへて秋澁やよし柳ハとかの雨　翁
二
かゝすみて笛や鼓杉し　良
うらはしれまるを志しするうの声　葉
あゆるるれぬ足数をくきき　船
まさ解銭以あもて津の笑しく　竿
かうえし猟の條や寺まふ　翁
うゑねの筥さへうら紀伊和の車　扇
朴をうつる市ハ酒酔　雪
けはり三絃の糸をいてまて　良
張り合すしハ的たのうる　葉
御手ある鳥の戦ハ餌をえさし　船
四五匁肉を尺する海方の客　扇



あるるのこかいゑ見果のむら艶　雪
三
膳の肴纏くまつうきぬ客　良
荷をとも前すはのりき流れ　翁
うつうりつくく文をまきすて　船
志まれハ寿すうとむ人かく以人　葉
守るをせ紀きはし鬼ふ秋の花　扇
入ロハ四門千清の花の山　良
しるをとむる道生の道　雪

おゐの秀扇とへし彼岐帖　風流
ちしめてうほる風の葉　翁

菊化孤子花をわすれぬ　孤松
秀之　のくすす　虹の如き　曾良
そそろ雪　身と二ツ星　陽炎　柳風
丁市　くれさく　弱　むかくさむ　独芳
楳け　る紅父　ろ矢を　ろ侍　菊
笑　ろ　ろみ　く　おをさ　める　陳
梅　のさ　ゆみ　きと　やさ　き瓶子　良
すれ　を　ゆみ　さ　面　す　ち
三歌　ス　る　笑　子　古　の思　れて　如柳
波　の　ち　き　く　ま　の　蓑　子　木端
金　ー　る　ぬ　松　ゆ　の　と　船　る　風
義　ち　み　ち　け　る　み　の　ち　の　松

り金ー身を燈の少社ま　松
病ゆ　る　む　と　寄　そ　く　し　端
義　花　よ　て　ハ　ら　を　そ　く　菊
ゆ　き　ま　ゆ　る　ま　ー　ー　良
ゆ　ー　み　と　笑　を　換　き　る　き　の　水　法
そ　て　ち　ど　遠　て　も　む　さ　っ　や　き　陽
初　兵　燈　ゆ　ち　ハ　笑　る　ま　ち　ま　ひ　く　柳
牡　丹　の　雪　風　ち　の　こ　う　柳
老　侍　の　い　て　ル　ま　ま　け　め　と　柳
武　士　ま　ま　れ　入　赤　面　の　門　良
ゆ　の　つ　ま　花　を　燈　ま　く　の　京　陽
羽　織　て　つ　む　華　物　の　角　法

秋吉を拾ふかんぞの美　松翁
うゝひすゝきを分流の谷組　菊翁
家紋を出を見る夕雪　雪風
出塚の紋を見るかゝ大　端
まゝ俳諧の者く珠を　菊翁
よゝ紋て定ふ紋宜の白法　法
浮しし石のうゝ庵れう　風
ゝまる山も雨の清飛し　松
竹のゝもを彩ゝ紋象て　湯
夫ゝうゝひ拾塚ふ加　良

清風　菊翁
京英　風
風流　英
英　菊翁
法　法
良　菊
風

浮しゝ我家高ゝ紋ゝ菊
岩の拾岩ゝ竹のゝを樊
屋ゝを尾上の清ゝ田ゝ
ゝ月ゝうし二の庵の伝
桶ゝ紫人うけ尺ゝ笹のゝ
鈴のつ紋来いゝしのゝう
ゝゝける石ゝ浮ゝ浮ゝ縄
山八雄て紋ゝ竹ゝ無を
ゝ門ゝ家ゝ無を
秋田酒田の浪ゝ毎ゝ俳ゝを
るゝゝ寄の小ゝゝゝゝれし
京ゝゝ虫ゝ雷ゝ拾ゝ

良
英
風
菊
英
良
風
菊
英
良
風
菊



英
良
菊
風
良
英
風
菊
英
良
風
菊
英

清風

起伏の廣き野に小家かな　菊

物ゝ見えぬ夕べの蓑　嘉英

月朝いく度霜のみくらん　賢良

石ゝ立つ人ゝ悲しの角　菊

秀清ふ青花法師の新もち　風

大ゝ香絶て八紘をゝゝみ蛍　良

ウ　ウ

弐高ゝ先咎きゝゝゝ拝つゝん

雷ゆめ白八杉の梢　英

三ゝゝゝ蛍の木の葉ゝく　風

秋のつゝく地をゝ屋し　菊

いゝ先ゝゝ美女とおゝす雲行て　英



紅粉白粉の市のゝゝゝひ　良

秀白ゝ八秋の手拭のさゝ　菊

弾ゝ高ゝ象潟の月　風

蓮ゝゝゝ秋の中ゝゝゝん　良

半ゝ粉ゝ酒ゝ平　英

貧俗ゝゝゝ人ゝ走　菊

秀ゝ高ゝゝ鉄ゝ蛍の取　風

ニ　ニ

中ゝ俗ゝ八ゝ高ゝ月ゝゝて取　蛙

苔ゝゝ入ゝ世ゝ鉄ゝ秋　英

昇の月ゝ持ゝゝかゝる長さ　良

今ゝゝゝゝ秀ゝ後ゝ寒ゝる　風

二の宮八八重の几帳ゝ対のゝて　菊

良

[illegible]の十五歌　英
[illegible]の秋の[illegible]千潟　菊
[illegible]の　樟の　木　風
つくづくと世をうらにしてて　英
父の[illegible]宿を[illegible]の[illegible]　良
[illegible]の遊る[illegible]　風
[illegible]上る　石上　菊
[illegible]の[illegible]山[illegible]　良
[illegible]の[illegible]分　英
[illegible]橋[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]の家　風
[illegible]の[illegible]　良



[illegible]の[illegible]の山[illegible]　菊

一葉亭無[illegible]

[illegible]川　菊
[illegible]　一葉
[illegible]舟枕　曾良
[illegible]の[illegible]　川水
[illegible]の[illegible]毛　柔
[illegible]　菊
[illegible]の　吟　水
[illegible]　良
[illegible]　菊

[illegible]する大きの[illegible]　栄良
葉の[illegible]をかくしたる　水
瓜紅くつる双六の　石　栄
[illegible]れと吹めさし入て　水
[illegible]ふ人手[illegible]る秋　うを　菊
[illegible]の[illegible]の角[illegible]衣なれ　水
[illegible]くくくくてむさく　良
花の[illegible]を織す　[illegible]　栄
[illegible]山[illegible]けの塔　水
二　[illegible]　菊
刀　持[illegible]る甲斐の一　紀　良
[illegible]人も通[illegible]ぬ[illegible]し　水

物の[illegible]くくくひくく割る松の木　栄
[illegible]ハ白髮[illegible]かくくくく　良
集く　[illegible]女の[illegible]ともむ月　菊
[illegible]笛[illegible]髮[illegible]ぬ[illegible]　栄
[illegible]くくくくくくくく　水
合歓吹本のけを屋のかける[illegible]　菊
[illegible]くくくく方[illegible]の　紀　良
[illegible]の友[illegible]と[illegible]くくく　水
[illegible]　栄
三　[illegible]れ沙[illegible]の市の[illegible]　栄
[illegible]　良
[illegible]人を[illegible]　菊
[illegible]　栄

やまゆり　烏のまうふ入　右　水
ひらひらと翌とうつるの哉　菊
山田の稔をいとゝ面　良

羽黒山参詣の関梨のお宮青苔を拾ふて　菊

有がたや参るとめてすゝ花の雪
仕合と人の踏ぬ雪　雄丸
門舟の猛り寄もし引上て　清良
鶴の巣ゆとる三方有　狗雪
深き天をとゝる秋の哉　殊妙
如来　南無　袖うちうゝ　梨水
餓てい苔のかけ寄心迄　雪

百里は　旅をとゝ本ゝの生追　菊
山伏ゝ四ゝ堂の跡を寺も　丸
谷　杉ますゝむ卒木の森　良
寄よみの絵ゝ家ゝ　雪
豆ゝ山ゝ秋ハ何と　児　丸
古郷を寄ゝ寄ゝ桔梗蕎　菊
寄ゝ之枝ゝ　の萩　水
月尺ゝ引　逃されて胸き　良
数ゝふゝまゝ寄ゝ　菊
ゝ川ゝ光のかゝ花形て　丸
的場の事ゝ　咲ゝ広ふ　雪
ゝ寄ゝ絵ゝ七ゝ　ものゝ力　石　菊

汲ていとくゝ醒る井の水　九
見渡のうしろさやかに霜の色　圓入
敲の門手に取て霜を踏　良
かゝる淋しき雪の中の松風　九
数点ゆふる雪の山ゝの雲　菊
うすき雪八橋の枯葉の上にくゝ　水
汐の満てくゝる船の浦き　九
籠のうちを拾ふ矢竹の折ゝ　雪
篠屋ふる雪の法の和尚の法　入
有山の嵐の風に骨を惜む　良
鶴の声ひゝく橋を尺ばし心古　水
九



咲くに藪の色　雪
ぬる人手に持て妹が為を活て　菊
行くも戻ぬ冬の神　良
鶴のさうるふる流の波　會覺
常世ゆくくるゝ春の海　水

[illegible]重行亭

[illegible]山の和尚　菊
[illegible]なれる[illegible]井戸　重行
[illegible]織の[illegible]橋ゆく　曾良
閑[illegible]生れ[illegible]の三ゝ月　呂丸
[illegible]の[illegible]梨の花　ゝ

[illegible]て小坪と仕し　至
山の端に清うして帆風松　菊丸
蔭多く里人らとうらとして　良
栗稗を多く畑の麓に各地く　菊
うのちこうして行る石の戸　い
赤樫を母の紙屋樫をすれ　良
寝て張て小田の苅初　丸
叫秋の門の板樫こつもり　仏
敷多て多仕てひとり尺る月　菊
きぬしハ秋の夜も同じ千の雁　丸
命の女は姫ゆけ物　良
智入の義こてるまもなき　仏



もとの廊ハ烟て焼ける　丸
三　条記のまま一部て焼て　菊
京良の秋こて見数こめる　仏
叫ぶて先ハ人ハ釜物て　良
商者多のこ[illegible]ひ美し　菊
こうけさハ月を法こす筑紫松　丸
秋して友を待こく　良
みちの花を[illegible]小松　仏
蝶生の如こを踏つもこ　丸
多蟻の如こと[illegible]見つん　菊
こけて多けもこ[illegible]　仏
ゆこつ身を[illegible]郷のやこ尺こく　良

温泉のそふる陸奥の秋風　菊
初雪の須磨のあけぼの　丸
山ちかく化る宮の菅笠　良
尼衣男手まさりうつし　行
海きかふ赤松綠鶴　丸
花の岡やとやいつまほる色　菊
影ちらしまきの山ぶし　良

酒田不玉寒袖海に上
ゆくえ山や吹海のけて久源　菊
海松かる磯のうむ忙逢　不玉
月むかふ関屋をかしん海松　曾良

民のかまとのくすり秋風　菊
さすらふに世をうるを相　玉
ゆく秋の玉をつゝむ籠の毛　良
うゝ風氣の霧朝の雨ふる木く　菊
火を禁うはけう白髮ふれ法　玉
海尾ハうちもふまとしきうせ海　良
松あるさおくくる武隈の去年　菊
苔秋初のしきをうゝ　玉
ちまさの秋千祈るかゝ　良
おゝ仏してゆくふ氣と思ふん　菊
世寺の末もみよしのゝ入　玉
釣法ふ無常寺の法の苔　良

ふるさとのちとせの色を今日の色　菊
梅ゝゝ花一枝　玉
[illegible]の旭社霜雪の月　良
[illegible]の[illegible]ハ本魂よりくさの風　菊
すゝきハ波ゝ[illegible]ゝ山姥　玉
強力ゝ踏つゝ[illegible]る毬伏し　良
枝を切ゝ切ゝる隅の蕎麦　玉
紅葉ハ[illegible]ゝ[illegible]を[illegible]ゝ　菊
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　良
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　玉
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　菊
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　良
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　玉
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　菊
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　良

小納戸をおくる戒の句　玉
[illegible]ゝの母子[illegible]ゝ[illegible]ゝ　菊
貧[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　良
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　玉
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　菊
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　良
蚕種[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　玉
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　菊
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　良

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　菊

あをのをとる桐の一葉　左衆
新雪を食ふてはこの世を上る後　冒良
海士の小舟をたゝ山を尺をとる　眠酌
新緑むらさきの山を尺をとる　此竹
松の木ずゑ（ウ）に作り作り侍　布雲
夕あらし長崎の鶴石の響　石雪
響ゝとおく聞ふ物うしの　孤華
ぞひうけぬ笑を体ゝ　衆
きぬ〻しの埼と起と立〻　良
数〻しの根の雨は物つゝむて　義年
後ゝとうる春ゝひ色　翁
ゆゝとも新年ハ夜のをゝく　衆



春川ゝ来る光のみくさる　衆
徳ゝまゝ〻ぬ雲　衣　政
ゝ〻さ二人の山本の花　衆
新の冷をまゝ雪かゝ　手
梅の羽をむ　埴　雪
二をゝ雨を契剃吹ゝ流ゝて　翁
ゝをいろ〻しゝ人〻しのみ　良

星ゝ宵ゆ千弱ゝ雪ゝ止ゝ　石雪
いろ〻ゝ休ゝ初荷の船　冒良
瀑ゝ踊ゝ竹ゝく布掛ゝ　翁

此ごろ十句ばかし

秋風おくるゝ父ゝ松かぢ　菊重

加の雲を除てゝ拾ひし　石

絶て後ゝ忘れ古壺　更也

稀柘ゝ小枝ゝもの葉を洗し　良

角のゆゝ[illegible]れ八長寿ゝ　菊

[illegible]を[illegible]ゝ雲をまねりき壺の上　重

一むら鳥　人ゝ絶て　菊

壺山や燈て小仏を拾ひむ　右

科の[illegible]を[illegible]の花　や

[illegible]ゝの百[illegible]魚の[illegible]を除て　菊

人[illegible]ゝ[illegible]き手の[illegible]ゝ　良

松柏の紅[illegible]して[illegible]れ[illegible]手し　重

子を紛[illegible]ゝ　菊

[illegible]の秋を[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]　右

世者の[illegible]山子の[illegible]　や

捨[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]れ秋[illegible]ゝ　菊

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]れ[illegible]生新[illegible]　重

埼濱の孤村の[illegible]雲[illegible]　や

清[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]清し　右

かゝ[illegible]ゝ[illegible]地蔵の[illegible]石の[illegible]　良

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]里の[illegible]　重

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]手入　菊

[illegible]を[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]生　良

きりぎりすや少牧吹屋芝　菊

雀を見て行て鳴うつす月　鼓墻

弾つきさびしき秋の数かむ　小枝

よしの弾戸をとぢぬ夕くれ　谷ト

きつねやえ狐面をかぶる案　蘆生

ゆくしにのうしの一ぢ紅　志拾

涼あふき碓子ゆけふる矢を拾ひ　夕市

雨子洲崎の岩をうしをふ　敦益

うたたねの松をつ火ハをし　観生

乞食起しさく物をうれば　胃良

蟋のゆむてハ室子蓑ゆ　枝



蓑をもむ法やゆくゆのな　菊

夕雨のすゑ蟲乾子今ゆ　卜

ゆをほをつても難ゆ　枝

侍のやふくをつゆのちあれ　墻

そろ餐　翠ふ赤の世とる　観

洞子さす月やし豊の光りて　拔

ほくそ栗をしくれ　味ふ　市

鈴蟲も裡のゆ　衆やかく　蓋

蒂　蓑ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　追

禁ゆ　ゆ子ゆを　ゆ　生

めゆむ法多子法ふ蓋来　良

きゑ　検拾子人立ゆ　拔

かしちとうに性あるあ
一樹手折れるあむ三りの月　市翁
秋の雲をくく糸屑のいろ　嬉
宮あうう之八う紬の高宿く　生
老子よをしるる出るるく尺む　卜
るまれ子をのふおるれ桂やをに　釵
雲うさしく沸石の板あ　翁
沈花もあらえもし　なつ　枝
京詩のさ尺れ仕方ゆゆしき　良
劇ゆし五の良ハきれるう
あうさ尺しのけとのをけも
大うさハ村るるる走けうく



能ゆるゆる尺ゆる町のきう賀　笠翁
風送る鈴ゆして清しやれ　卜
笠家もいふ女ともいふ　市
古ゆ文笠のるるるるあるしき　嬉
あけの情子罰やはるるむ　笠
きるるもかさしく弟を拾ひし　釵
花子笠して雲を友　良
雲の笠も筋よゆ雲ゆう　枝
う笠くしやをゆ江の山

かゆ能る
跡笠雲子ゆ能見広苔子　翁

みーこのさまをたれかの名れ彩　一泉
角ちもゆく砂の末こ丁次ゝ　左任
すき百さひーき村れ生垣　ノ松
孤張張の門を高くて椿の高　竹亮
小桶の清水ふ的　香　詩子
七ウ夕ひとゝ夜の涼しも梗の奥　雪口
うさぶーやる西の方系　乙州
よみ野ふ高ゝ色ゆゝ山　如柳
もーー清をハやゝ月　北枝
船さふく嶮しゝゝゝゝゝ　蕓臭
杉の立木千年　稿　流志
ふゝ川家ハうの中と縁沮し　泉

きゝめゆゆるふれさうひめ　菊
糸うゝ霜百糸ゆゝ色糸　枝
ゆーーる踏ゝむ走山のゆ　口
ゝ子の戸社家ゝもゝ歩ゝ　浪生
畑　歩　ゝもーーゝゝいゝ書　良

七月廿六日観生亭ゝ

ゆ船ゝゆゝ人ゝ松ゝ白の蕎　菊
笠かゝれゝ子ゝゝゝ森　観生
月尺ゝゝ海ゝゝ松ゆけゝ　蕓良
千ぬかゝひゝゝをゝゝゝゝし　北枝
松風千屋霜の家の小夢ぬ　生

雲かくれて一片飛
りと詠ずる汎宇の哦は遠あら
ん戸に杯をとて勢ある酒樽
むら雨の古ぶ猩々もちやれら
色の地蒔絵の桃かりなれ
晩稲の穂の赤ちゝ赤ちゝ
高をとまむる宝壺の船
舟のきぬ女のかちとうと
みぬうち舟とう系とう
きうう木ようゆむす様の
うみう上る場のうう
寄り伝ハ行の杯を只四本

菊枝良生菊枝良生菊枝良

多多かきゆる舟のあさうい
粉をすうう生ゝ赤の唖めるい
むうをを走る月の沙陵
赤うう花ゝ朱橋里ちゝ
彩色 義色もつねう
二陸の羽や赤ゝ殺ゝ狩ゝん
くゝの上ゝ杯ゝさうゝ
ひゝき赤ゝ木魚ゝ心角ゝ
月後ゝゝて史ゝまみ後ゝ月
色の斤とぬゝ人の名ハ鈴ゝ赤
ちうゝみゝくゝ石の名機
砂社ハ樽の寝生のいくうゝ

菊枝良生菊枝良生

[illegible]の[illegible]
一[illegible]ひとをむかふ[illegible]
はふ[illegible]ア 嵐
後[illegible]
[illegible]みきる[illegible]
入山[illegible]
[illegible]
[illegible]
甲[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

翁
枝
良
翁
生
良
枝
翁
枝
良
生
翁
枝
良
生

翌[illegible]二人[illegible]
[illegible]
汗[illegible]
四九の[illegible]
[illegible]
長生[illegible]
[illegible]
[illegible]
酒[illegible]
[illegible]

生
良
枝
生
翁
枝
良
翁
生

ちうら桂し家の秋芋　亨子
渡しもる縁よ丘の月うけら　殻蟬
さけし仕へ　お屋しきへ立る　菊
海青庄子　傘さしを　子
ひそうそうひしく大手の梅　蟬
きくや二ゆるの雲　蝶の巣　菊
青つる海隙　そつすし　子
秋花子多　主まとるとし　蟬
主つつ文れて作のふ花く　菊
提灯を海女ゆけるもすき　子
ひる畳ふ家る山もと　蟬
巣の戸小納豆しくは新し　菊

野家ふうう竹梅きる　藪　子
行義ま人八二するみしぬ兵　蟬
よそて舟こうま月の川　鶏　菊
猫杉ぬ芦屋ハもとうう　子
主手の軍　骨ハ白　暴　蟬
やふ入の時や　ものの面　菊
義　みほしの数　ふ　子
うつくしき　佛を沸　蟬
はくはかち　周墓の仕合　菊
芋ゆけて手の餅　搗いそうき　子
巻ひくふる　志賀の　古里　蟬
ふくとの　和田の　菊

今利を喰ふる陸の坊子
ひとりくゝ割しの笑の花咲 嬉
お家の年貢もしふ百姓 菊
郭の力囲まれ赤ちゆく拵子
付め敵の絵図ハくしき秋 嬉
「長谷くしハ花笠の新千歳 菊
守の館くゝ箸かくて家子
十重二十重もの二けるを角の絶 嬉
秋業一芸をこらけるを里く 菊
地の末くゝ寄の長系子
玩毛の新美くゝ絵 垣 嬉

山中の温泉くゝ

くゝて蓋ひゆくあるの面 北枝
花咲くゝ山のまのうめ 曾良
月よくと角かゝ踏めて 菊
鶯くゝをやうとよめる 枝
青淵よ樹の花むるの苔 良
実かくこゝ峰の毬花 菊
ゆくをゆくの山ハ蓋の寺 枝
越女四五人田をくゝひ 良
長書くこひ出へ名をくて 菊
髮ハ剃わと奥くハめし 枝
蓋の糸くゝも中し乱源お 良

元祖の貧を侍くるる門菊
子孫の栄ゆる世上望かなく好枝
雪中にたたずむ竹の猫のうら竹良
秋風そよめいて流るる水菊
さらさら散る紅の侍く蕣枝
花の色小青ふ赤の町侍良
さを踏きる玄竹の笠菊
ニ
世ゆるや志賀波の奥ふ敷波枝
紅の小躑躅芋焼良
手枕子志ろねの浪ふ枕菊
うつくしうほと眠く霞面枝
絵小袖恵もの方風し菊

非義人ゆる人ゆ菊物い
明ふ明恵子ゆる浦しゆる枝い
明ふ紅子侍ゆ三ゆ月の紅い
初貴人ゆの初桃ゆ時ゆしゆ菊い
小物ゆ侍ゆ侍ゆ世神風い
疱瘡ハ素ふ永ゆ永ゆ色枝い
雨ゆ乱ゆ乱ゆ桃侍ゆし
ニ
雨世ゆ仙女の姿ゆやうゆ菊い
島ゆ島ゆ侍ゆ侍ゆの白浪い
仲絵ゆ家侍の門ゆ門ゆ浪枝い
寺子使を三ゆ日上
侍侍て迷ん義の義ゆゆ菊い

旅宿人と除生きられぬく　挑華

九月八日小野の道の茶屋

一とせ尺ばかりなる萩の枝うち

むしの袋を簾縁かに　路通

紙子もむかしの角ぶて　菜多

あるじにもうもの酒のこと　白之

柱本尾ハ柱市を行をぶ　綾夜

合のまくらぬるハおもしに　菊

紙袋人千尺をくるみ　曾良

吹ちくのくま叶のさう　多

葉のもるゝ海ゝ彼れ翠竹　通

良

ほそくよあるしにぬむ業傾入　本因

新の名ゝ峰の雲ゝ峰ゝ　秋

月尺ばかりきしし旅の袋　朱

さゝんしの見拾しる布ふくろ　之

地獄絵をきさゝんの名　菊

きめしの尾用ゝ後を抱むん　通

鶏の頃松子ゝ山おもうけ　因

豆数ひくゝ多ゝ如里の花　秋

ゝの業ゝと任ゝす花　之

きさゝ和や黄泉ゝ胃ゝ　菊

あゝしにひくゝ胃ゝの成星　夕

蓮まゝ松子米穀かゝ　良

秋

このころ宝引菊をとられける　通
みやこのむ使ハ鏡を紀　翁
旅かうは旅人ものいはぬ僧　ミ
着きえ無常なりの噺して　荊
茶をつゝる人手ほしらす　通
田を買てひとりものに菜門　翁
炭焼うる森此入口　夕
夕月秋篇をとしたる窓張て　良
それし宝に秋の露蝶　荊
谷こもりは新酒を飲と呼し　夕
ふや辻患れうらむ株上　通
おもれたえやるを送る約詞　し

麦もうけて一斗の菓　翁
響ともに百さへ花作り　夕
故様ことくさらつゐのゐは　桃葉

九月三日荒尾の歌

現はなしは物ならず御名所　不知
山きゆうまりを萩の露　荊口
秋月やえ西なるをえつすらん　翁
彼の方すゝ人もはうらう　如行
木を枕て枕の水にうきし　左柳
ウ
酒のさうあては乎瓜　残香
秋のつゆ隣の秋をあらはし哉　斜嶺

己まゝはやゝまき川も手のゝ嫁　如風
いそしむ人のみさく引きさき　知
秋若の面をとむきうけ手凭　翁
ま川よりの鐘をやよる鬼らし　行
菜よ川ぬる月のさむしさ　枝
荒見して拾きくすて苦しけれ　翁
網代の鮭我市のむさほり　香
舟の形雲ゐすてゝかくるゝ　巖
上﨟さらも旅のさしのうね　知
花の雪吹宮の出椿ひゝくつ　行
餘所見えしをく畑の山かすみ　風

はやく咲九日もちかし宿の菊　翁
こゝろうれしき宵月の露　左柳
新たけ古手の聲の鳴かず　路通
雲うすし上山のかきさかえ　文鳥
酒飲の癖子條子を的にしてる　越人
穐柿のしくも文をくゝりけり　如行
足のうら撲て銭をすゝめる　荊口
妻をと叩れてみすゝりぬ　此筋
二人めし妻子心や翁めらむ　木因
けつり艪子精進つすゝつし　残香
兎角しさ灸するせをとられむ　曽良

当物のうちの伐魚さしの粉　斜嚴
飽くまで旅もらの下志にて　板
歯めけとあれハ貝も吹きて　菊
自宅く浜ゆゆてうるし　与
ゆうつお殆る青の糸　に
一株手ひつの山の花咲き　通
植ますひうもまの藤みて　人
茶果の姿はうハいの色く　因
村さう花ゆて知るおハう　最
咲きくひ郷の色ゆ殆しろや　節
二代上の聲ハあうう　糸
拾ひ北ユさまほとりうき　良



志作しらぬ野と蔵くて　紗
名家ものおりてその大きて　板
茶の立中に不棄内ゆ体　与
美しく新生れつく物さま　人
庭手ゆうくお青のきぬ　通
自新手異見とやをすの定て　菊
茶とそ物ふ一株の義　に
何ゆ多くを花蕾陰ゆ　節
追ゆを走ゆさそふ茶立　良
九鉢手拵て中に蕾ゆ　糸
物のうけきる毎の蕾さ　因
花のかけ強金屋の叫まう　紗

梅山子もとゆるつゆ　雪　嚴

いさゝか仙さうの玉露　菊

初霜手さゝぬ梅　仙　良品

明年の風やむ枝　梢風　梢風

居ながら撲さしむ月の　之燕　之燕

庵の霧の霧の霧　去芳　去芳

きらゝ　雲ゝ　嶋の周　梨　半銭

紅阪の雲ゝ　雲ゝ　不

物ふらら　の塊の　菊

岩ふらゝ　斗千ゝ　海雲　蕙

けうけよ雨の手枕　風　秋

春雨きのひしゝ　秋

さゝゝもゝ　芳

雪の雪傷雪　菊

有入うゝ　不二のいゝ　風

秋風のすゝ　不

簡ゝゝ　蕙

面一野八雪　芳

明識　梅ゝ　菊

二　秋之ゝ　耕す　風

首のゝけゝ　秋

秋ゝ　山の白ゝ

いふてと[illegible]　奥州の[illegible]　不義
苔生して[illegible]の辛[illegible]ぬ[illegible]ぬれ　風
林[illegible]　[illegible]の戸　芳
窟の冊を訓を八安の流の[illegible]　菊
風雅仕上て風のみの中を　不
寺の中に採題のひろ[illegible]　跡云
よりて石くれに佛きざ[illegible]　跡
瑞陽堂に月をとゝ[illegible]　風
侍の[illegible]　判　[illegible]　蓋
[illegible]をみて[illegible]めくらと[illegible]　菊
[illegible]うれと　碑　[illegible]　風
[illegible]れ[illegible]　[illegible]の[illegible]　不

白[illegible]の[illegible]　秋
古義[illegible]の[illegible]　跡
[illegible]の[illegible]　蓋

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]の月　國風
[illegible]を[illegible]の[illegible]　梅額
[illegible]人[illegible]里を[illegible]　半識
[illegible]牡丹の[illegible]　去芳
[illegible]の上の[illegible]　良呂
扇の角を[illegible]　風麦
[illegible]の[illegible]に　菊

初かつをを特賞う篇　本白
うの節ふるとて桜也　新
おくをとをもよ注連のうけ　酢力
伊勢の海よりれ素襖をあけ　麦
かくれのそを嫁る古い　風
村人ハ耳の動らうてあるて　芽
鶴江門流をうのうち　茅
告てもすそ手の海を村ひて　砂
身を為ての長をかし　力
妹うの海手稚寿の生義　風
ふみをうすの芝真葉　麦
うなしての糸の衣裂を秋折く　菊

むしうけうの鶴阪の宝　芽
此もの流をのれてそめ　白
肩子村めの仲のさうし　新
鼓を巣ノ尺をの里かれ　風
さうなしてのの話をかひ市　麦
蓑紀子志ほもうの長ふ　不
女唄すう仲の戸の内　芽
塔彩のいのこ此餅を祝ふと　菊
肖中ハ唐くかうらすりる　白
三うれうの船の中をたう羽　新
多をひうえ尺う精ほの魚　力
高ようとうれ志ほ紙けく　白

ふるさとやうつしの袋　琉風
七夕の夏をかしこまる陰ふてさい　翁
なるうて夜ものきふむ月　麦
柿の木は枝ともまくこ実を持て　芳
飛てすきやうしの名や紅紫色　馭
浮り出の陸ひやうひる蜻蛉　白
小斗の星をつれ村雨　琉
麦の穂の穂ゆうて実くゆつれ　風
松ハ一か　山の神　翁
元禁しるもの寄する藩すれ　芳
終るし　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
寄ふ海ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　力



ちるぬ方は歌あをつむ　麦
時はそ火を棒ふひろ位　不
家めしう来て路の名を四　白
引うゆく芋の蔵の浦を寄は　芳
月の寄　拭てもふ文　風
月の家きうみ一所と美しも　翁
きめるあ　し　を　の　ひ　ひ　力

雲ふ今ゆくやゆ小斗の星のお　百歳
箱の寄　ふ　あ　つ　ち　の　橋　式之
一つひ野の寄て鶴松ふて　翁

[illegible]千苅しほ田のうけ　芭蕉
[illegible]の名を[illegible]の月　材木
[illegible]　[illegible]寄の名を　槐市
[illegible]の[illegible]れの[illegible]れ大[illegible]　梅額
京良の小和宜も加[illegible]し　菊
提灯を地[illegible]しいし陸の[illegible]　牛
[illegible]を[illegible]ほいを　[illegible]
浦[illegible]人へ物[illegible]　[illegible]
[illegible]の家を[illegible]　[illegible]
[illegible]の釣を[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]千[illegible]を[illegible]

瓶[illegible]　[illegible]
枝[illegible]の枝　[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の末て[illegible]小[illegible]を[illegible]　[illegible]
みまの屏風[illegible]遠く[illegible]　[illegible]
[illegible]千[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]の市社帰[illegible]風[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]の月[illegible]　[illegible]
[illegible]書千舟[illegible]　[illegible]

家子清くわ[illegible]紋　冬菊
子供から侍る[illegible]を[illegible]ひて
子木のしたもとに[illegible]株　れ　[illegible]
物云の下紅の[illegible]を[illegible]けし　[illegible]
[illegible]を[illegible]れハ[illegible]れ等をとる　菊
詠　[illegible]ふも[illegible]の[illegible]られや
相[illegible]　[illegible]ら[illegible]ら[illegible]　[illegible]
[illegible]の[illegible]物や[illegible]ら提て　[illegible]
[illegible]ら[illegible]ら[illegible]一　[illegible]　[illegible]

[illegible]風雲の[illegible]い[illegible]　玄甫

虎[illegible]の[illegible]みし[illegible]　舟竹
十[illegible]を[illegible]米の[illegible]　菊
[illegible]の月雲の[illegible]ハ山の[illegible]　甫
[illegible]　一株の[illegible]ハ物[illegible]秋の[illegible]　竹
人[illegible]ハ[illegible]の[illegible]れ　菊
[illegible]ハ[illegible]　甫
[illegible]も[illegible]も[illegible]　竹
[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]　甫
[illegible]の[illegible]　竹
[illegible]の[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]　甫

門戸の角を待しのう紅　休
秋風千木孫紅葉も吹き散り　菊
蕪よ主不絶寿の陶る　命
若きのうき賢の田の雨きたく　菊
ふ千おくれ久もゆきまる虫　休
二　言のりて共柄の傘の毛　命
壁斗を付しる解の紀の紋　菊
白粉ゴム代を中軍の姫う色　休
殊よむ業をもすす　命
風さ紀千納屋大のちく仕く　菊
叫を引ちる梅の行き紀　休

自家を南の秋のを長う南　露沾
性のかゝ千ふを入る　寿　菊
蕎麦も言久の南のなくふに　菊
木写を祝くうしよの　面　曾良
こを秋菊ちゆくんと下秋
茅屋を寄作さ教ゝ川の陽ゝ
すの川ゝいふ和千海ゝ結ゝ
つゝさしゝ
雨ゝ絶て桑の赤焼尺うれ　桃雪

いろ紅の葉ちる時や蛍の火　等躬
夕食ふ鯰のおとや月おそし　菊
秋風をうらと布引のし　曾良

ゆさふれ行くえ八幡の
ゆうもいつを何と知へきまつ流
萩ゆふをを文ふひろかはこそ　等躬
市の子供と手ふる砧布　曾良
名所笠を手ふる涼みかな　菊

田植の名ふりしめ多れ賜下女
はしりもとゆけきふ飛りれハ



加賀早苗ふりてむ食をむ　曾良
いろものの外　鶏やゆ鳴すれ　菊
夏引の多ひの青芒ふ掛て　等躬

風流序ふ
多の花く水宝ふる柳　菊
ひふ行ふ橋のふを芝　風流
風ふる的の翁ふ旭時て　曾良

盛信序ふ
風の音ふ南ふ川ふ　菊
小家の軒ふ洗ふ白雨　桐風

物をうく　棟ハ遠方ヲ埋住て　本端

六月十五日青角寺貴命寿

深草　菊

月をゆるすまの浦の浮海松　令道
入しるまをみ川　不玉

黒野の菊ゆくゑの盆明て　定連
明もとハ雨ヲ雲きれ　曽良

波ゝの形成仕て市を待　任暁
新ヲまてるまの海火　扇風
不操姫のこゝろ立　意志

ゝまれよ切ヲ蜂屋山の垂　倉覚

杉の義をうく　三日月　菊
秋体ハ朱のうを撰く　不玉
以ヲ絶ゝ　ヲ月明　曽良

某樹ヲ以ヲ花を求　枕　菊
義のすゝれを扱ける月　棟雪
姥ゝ月ヲ花を秋のいをて　更也
ヲのゝめけし宇義のしい　曽良

義を一枝ゝめて
高ヲ山の芳ゝ秋の蝋　小春
ゆゝ月花の底さしきゆ　菊

紅葉山にある方はそけしくさ　蕭良
江ふちのうすみ水のうき魚　小枝

物ゝを扇引さくるの秋うれ　菊
ゆふゝ雲手きほひむ雲和　小枝

送る

秋のゝ紅ゝしの笹紅ゝ　木因
暮ゝ窮ゝ暮ゝ　菊

ゆゝくとうれつれも秋の風　菊
吹稲の黄ゝ　支清

元禄三庚午
二月ゝ

ゝゝ紅笠ゝ　梅うれ　菊
古井の堤　笠ゝ　入　春　左木
河ゝの清ゝ　百果
指さす方ゝ身ひつむし　村鼓
梢ゝ陳の柳ゝ　式之
秦ゝ吹ゝ　越額
俤ゝに生の垂ゝ　一桐
ゝゝといのちゝ　槐市
伴ゝ妹ゝ　稔ゝ上ゝ　教

篇さく酒に声の蔵する　菊
古とのなされぬ事におしくと　木
そして得ことかり月の恋落き　泉
鳴く鶏に庭に木実の花かる　影
憶吹人のなきすりはなし　桐
鶉物て桑の市に法灵て　呉雪
探婦にもけ八幡宮の祭　之
踊見踊らふ事くるもの花　巣
二
茂むしきよりさかしの蝶　木
春の色新合て踊されまき　菊
尾上を鳥し河木魚とりまむ　市
むし雨の皇きぬ得し綺きへ　設

素とふ昔も一段まうそ　雪
ゆうき総てふされ人の立ゆう　桐
注てたる子の新のきうしふさ　影
為うしく米福にと八火も椿ん　菊
御幸をとうらし高省等をたる　市
大内に丼戸あうをたち秋のられ　桐
地震にうろふ松のこいある　木
まうのに毎の皇ま文をうし　巣
三
形尺のひんを読まうちれく　之
掛香を小袖のうてに縫ふくさ　設
三味線ひかさあう妈気食　菊
東山中まき花て清く香　木

けふもちゝあまる智恩院の會　桐
老の春河の杖をさしまねき春の色　兮
水干しまふ夜の寒さ　雲

木のもとに汁も鱠も桜かな　翁
西日のどかによき天気なり　珍碩
旅人の虱かき行春暮て　曲水
はきもならはぬ太刀のひきはだ　翁
月まちて仮の内裡の司召　碩
ウ 籾臼つくる杣がはやわざ　水
鞍置る三歳駒に秋の来て　翁

名はさまざまに降かはる雨　碩
入込に諏訪の涌湯の夕ま暮　水
中にもせいの高き山伏　翁
いふ事を唯一方へ落しけり　碩
ほそき筋より恋つのりつゝ　水
物おもふ身にもの喰へとせつかれて　翁
月見る顔の袖おもき露　碩
秋風の船を怖がる波の音　水
雁ゆく方や白子若松　翁
千部よむ花のさかりの一身田　碩
二 巡礼死ぬる道のかげろふ　水
何よりも蝶のうつゝぞあはれなる　翁

文さ　ほとゝぎす　なむ
うすものそでをいとはるゝ　水
題　雨　ゆく　注　ひと　翁
手束弓紀の一年　雪　かく　野
通て　元　ゝる　重　ふる　むし　頃
双六の目を取くやて　夢　ゝ　翁
仮の世　仏　あるゝ　水
中しに　去　百　ゝ　水
赤　ハ　里　れ　ゝ　ゝ　翁
みくやれ　ゝ　ゝ　ぬ　頃
自取しゝ　ゝ　月　水
花　ゝ　ゝ　ゝ　翁

只四方　ゝ　芦尾の　頃
一貫の　ゝ　ゝ　ゝ　水
醫　ゝ　ゝ　ゝ　翁
花咲ハ　ゝ　ゝ　ゝ　水
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　頃

本のもとに汁も飯とさくら　翁
ゆる　ゝ　ゝ　ゝ　風麦
嫁　ゝ　ゝ　ゝ　良瓜
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　去芳
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　霄洞

樒のあらし蔦の糸の実　菊

ウ
石榴の綻目をたゝみ昔の雲　麦

夏ようられしき蟷の手修羅　不

和哥の志にしけりやおもふ哉　芬

木幡山への雪の夕ぐれ　麦

売尾をたへなむ人のこゝろ迄　菊

井戸のもとなる冷き切し　洞

涼しさの裸になりて月をまつ　不

むしろをたゝむにもしや薄きる　菊

扇しめるきらしく蚊の尾をすべて　麦

新なりたてる船母子の左力　芬

まんちう紅つけちらし花ざかり　半織

二日永ふかつて二日酔さけ　三蘭

諫言のきゝに摘をひかす花　菊

すけなく世以のまなさけ数　不

年のふ萩の蝙蝠蔦ナ橘の木　洞

ひよくのきぬけ筆うつくる　蕉

蝸の家を飼養立つくい隠し宮　不

まさし新しふ麦ていときく　麦

御佛につのくるりまあれして　芬

涼やさらつけ手えさりつ　諦

ひちやまのあふを宝に入るままかつ　麦

蓋を櫻のうちで火の章跳ね　菊

夕月を扇に語りて秋の風　蕉

寄しひ人ハうの事
ゝ蔦の七の朱と名をつけし　芳
紙代ゆゑんゆゑ和よけれハ　弧
ゆ入る二葉の弱を拾ふ　洞
蹴さ　ぬ老の名　巷
降る　流さられすや　不
きしやうハ　家在　麦
　　芳

伊賀の山中

鐘年や花のさうに変ゆく　菊
火燈ふけハ風ふく　し　平蔵
風音の外ふる雪ふる　云芳

秋ふく　葉の　良不
ひさうの七ツ起る　家　弧
ひさうの　れを付　弧
秋風ニ桔の戸ふる　猫入ス　菊
小作の　ふ　ハ　する　不
安　と　洲の　家の　芳
高賀の　ふ　川の　菊
手秋の男　ふ　三　梅　弧
人　ふ　ふ　ハ　芳
萱州の　ふ　ふ　不
秋之深　ふ　ふ　弧
月雪ふ　ふ　ふ　菊
月雪ふ　ふ　ふ　不

こちれて　まさむ　雲霧の　雪　芳
新しき　母の　ものの　手　陰に　隠れて　見て　菊
後の　ひ　事　ら　あの　かく　め　秋
猫の　目　社　ら　柿　核　よ　ち　丸く　芳
ひの　ものの　ひの　織　蕨　菊　きる　不
かく　ま　菊　人　ひ　れ　ハ　さ　め　秋
も　咲　て　ものる　数　ゆ　ひ　菊
ら　し　こ　紺　瓦　の　形　と　ら　し　不
み　雪　の　梅　ら　紅　思　ひ　ま　す　芳
け　く　る　数　く　も　思　う　く　れ　菊
ま　え　紙　の　ひ　と　ふ　く　け　る　秋
数　ら　ま　ひ　の　ま　ま　ら　ひ　ま　す　芳

いと　ひ　く　紙　ま　る　形　の　雪　の　宮　不
田　嵐　の　紙　く　み　ひ　ま　す　自　浦　く　秋
紙　ひ　く　和　る　牛　の　ま　み　旅　菊
ま　ま　田　越　の　ま　ま　織　紙　ま　ま　し　不
ま　ま　ハ　人　の　ひ　ま　な　く　む　芳
紙　風　や　咲　お　と　さ　れ　て　か　ら　見　ぬ　菊
雪　と　雲　を　い　ま　て　ま　ま　す　秋
ま　く　と　一　年　の　ま　ま　さ　し　風
長　ま　む　雲　の　古　歌　か　く　芳
ひ　く　の　ひ　の　ま　ら　紙　鶴　ら　屋　写　不　菊

世を捨て深山に住む人の事　題　寄香

初春の新年繁昌を祈りて　尚白

石ずゑいとみ深くひくしめ　自咲

松の本を秋風さそふ新しめ　通雪

雑　やめし琴の糸ゆゑ　松洞

うゑしらぬ女ものを縫ひ　玉

矢数の船のよるべ　菊

古塚の古いのみを拾ひ　咲

柿の葉　ゆく童かしまし　玉

きさらぬさむさむるを　宣秀

うき世れ命のはかなわく　白

花ふく雪をけぬ春二月　洞

枝を　秋の　黄金の雲　江山

いるつるを　対し紅おもれて　菊

よこ一ぱれ　月の出そふ　咲

雲を　花八重　陽　白

雨の　紀　峰のさくら　玉

春の　ゆ　玉

され　ゆ　山

燈火の　秋の　玉

出よ　舟の　面　宣江

そいの　水　一流

おそれて　簾の　菊

中の秋　時　仏を　代　玉

三絃ちらく荻を踏をつ　兵
うき人をわすれてハうき月の影　白
大勢寄て掛たくれ女　青
一條や二条ゆかりの小袖賣　洞
寺の子出てゆくの山風　白
ラ ころしと申すまゝもて手をうち中　江
畜を許ふて悔る時うら　雪
孫附ハ伯父の新宅尋ぬる　兵
数くの妹か手を持来る　龍
操うる妻戸の色の具を棒し　翁
よるよる書きくるふの細書　白

ニ
市中ハ物のにほひや夏の月　凡兆
あつし〳〵と門〳〵の聲　翁
二番草取も果さず穂に出て　去来
灰うちたゝくうるめ一枚　兆
此筋ハ銀も見しらず不自由さよ　翁
只とひやうしに長き脇指　来
ウ 草むらに蛙こはがる夕まぐれ　兆
蕗の芽とりに行燈ゆりけす　翁
道心のおこりハ花のつぼむ時　来
能登の七尾の冬ハ住うき　兆
魚の骨しはぶるまでの老を見て　翁

待人入し小御門の殿　末
をうつと屏風をたて女房ども　紀
房ハ外の業をしハしき　菊
曲毛の宴を吹毛ハ　末
俗ハ笛く寺ハ　紀
雅戒のさとを寺を　秋の月
手ハ一斗の地をくるし　末
正ハ生朱つけ　紀
し袋ふくよかなる花　菊
追ハてさやかなる　末
丁樹ハ笛ふ　紀
戸陰ハもちからしの笛浦　菊



ハ井ハもう　いけうをつく　末
らうしと学舞を　紀
ハをふひ起し　秋　菊
千ハにらい花　末
ゆうみし　末の　桃　紀
学院ハ　くハ　破　菊
いのちハ　ハ　撰集のさと　末
さハ　ハ　ハ　紀
うき世の宋ハ　小　河　し　菊
何ハ　ハ　ハ　末
お前ハ　ハ　ハ　紀
まのひ　風　ハ　菊

かくしこうめぬ屋のわふるき　末

原け柳の宗　やみうきしの　九兆

酒うまうして　青蘭すると　秋　菊

新しこみ蕎　ちる月影　野水

ちくしてしらきし　十のさうつき　言集

古代語を物をさしてし　菊

しらひしの　ちるかひ　秋

宗もして　枕　ひるまの　弱　末

磨那ら　宇　柳　やるのかまる　水

みめしてかるすこ　八　ひるる　秋

松の口　雪をうけて　雪　味よ　菊

物思ひ　ふわまれて　体むる　水

むらひ　きはしき　廃ちの　文　末

金　と人　ゆて　の　海さ　菊

明月　て　の　青　の月　秋

明月の　秋　ふけ　ぬく　石　末

何を　尺　も　寒　さ　し　水

花　ちる　ひ　函　ね　き　菊

木　の　酢　豆　て　き　れ　て　秋

陶　や　山　ふけ　ふ　四十　雁　水

宗　す　家の　梅　を　け　る　末

冬　の　蕎　て　来　る　小　ろ　秋

旅の発句ゆゑ
すさまじき女の言葉もはらくて　菊
なおかしき　狼のふく　東
子有歌言の葉　雨の御殿当　水
人もとまれかしの　ゆうふの夕　菊
うそつきやすき自慢いそぎて　紀
又も大なる鮎を見おすす　水
堀り回の書やきしいまもれ　東
加賀の紅ハ紅やーしらし　紀
物うりの屋号の言くるの物　菊
雨のやうの世界迅速　東
笠賣る書詩の為れ言ときま　水
菊



きうりの書の職しん　紀
糸機　絞一ぢ　東
書ハ三　月ゆけ　水
ゆく

及肩

秋立て干瓜うき雨音の間　弥頃
貴方ふみえて戸をたゝき月　之道
早稲稔をすゝ伝家八月もれし　昌房
人ぞ　ーーとよる辻の放ふ　正秀
稲柳をまい　ーくに尺の雨尺城　探志
虎義はふをしらのうの屋　頃
肩　捉て舟のこけを拾ふん

[illegible]
すたれかゝる類ひなき
非り情なる娘うかゆき
うけて[illegible]合明の事ゝ止に
机[illegible]くしと博奕はめり
内の[illegible]酒を世[illegible]きを[illegible]
業をいとなみと寺の庭人
上張を[illegible]ぬすむ和の[illegible]
ゐ[illegible]むし[illegible]の[illegible]
としくと[illegible]板ぬすもさう
[illegible]ひつれ[illegible]まの入[illegible]
[illegible]ひらむ[illegible]川[illegible]



羽織掛の紐
行て[illegible]越[illegible]
[illegible]をやまむ[illegible]
母親の[illegible]て[illegible]る嫁入[illegible]
[illegible]むる且[illegible]
[illegible]店を[illegible]
[illegible]を恋[illegible]の門[illegible]
[illegible]引の[illegible]
[illegible]の小[illegible]
[illegible]
[illegible]を[illegible]
山[illegible]の木[illegible]

石橋の橋を帰りつゝ物　頃
情強き聾の大工嘆しつゝ　芭
のうなだを訪ふ素良の僧上　肩
形の庭と素しもを粗庭けて　素
かゝしとすゝきのゆけなの　頃

自尺すゝ生子第一き新もれし　翁
庭の柿の紫うの刈まる花　尚白
火桶めゝ直のゝ流を多めて　〃
お出うの古の枝打米　翁
尾張のめてうゝ塔小鮒　〃

有ゝ名之気ゝゝ川の水上　白
宇寞と中のゝ人ふふ等物生　〃
南のくまゝゝ屋敷商さ如　翁
一切らふゝ絶て油る市の等　白
さしいゝるまい夜飯はゝむし　翁
いそうゝと活しゝ油宿　白
新ふとふられてゝ絶て　翁
月のお出えて冬ひふ屋の夫　白
枯枝かゝ和れ法　翁
住農野八交を秋ゝ絶て　白
大工の横をいの義迷宮　翁
三々の精示庭ふ花さゝ　白

八さうよまを吹海　菊
二月陶うちの根の屋うを　白
打のうるまうしまうむうく　、
商人は織りさしる紙稗　菊
物よくうやあいうしの影　白
森の森うよまを一つの色を　菊
笑寄うどうらの受月の懈　白
畑の寄屋しうる主一年春　菊
宮宣さうる春くまうく　白
嘉茂仁子藁の紫角の風さく　菊
隨分れうだ小の三月　白
宮取の塩の物は一生生　菊

きてと帰うる行くきは外　白
取りの宮宮の財の夕百宮　菊
小宮たうしく帰そうし　白
うまを宮のやうてそれるの宮き　い
まううみ寄うく拾う青の義　菊
宮ひけさ宮を入る杉の宮　、
打　盃　塩　子　以　ろしの　妹　白

白梅めく枕のやまうしに　菊
八月をまくに西宮の月　之道
ひの塩の鶴かうふる秋の木ろ　珠碩

かり掛へしるかしこの宗　菊
河風手作の　花のうらしとと　芝
麦の小ねをあくる　頃
腐おろうや　意舞の　芝
と一識の帯　美しく結ぶ　頃
久しき弘の　出るお座しき　菊
山ちすの清の　ゆしるさ　芝
かふと答ふ　踊子　頃
月ケ瀬の　色おいけて　菊
朝も鶴も　結ぶ　芝
勉ふも帯　あるお風子　頃

又も保生の　変貌　角　ま体　菊
財しる花も　咲くも　新　扇　芝
屋葉わう　て　在ふく　頃

安しとも　ふさよ　月の　雲　菊
舟をふ　ふ　宜　ふ　秀　風秀
ひかめも　咲も　おぬ　萩の　葉子　路通
猶ふけ　ふ　ふの　さは　き　文草
ふしとね　を　直ふ　琴の　弦　惟然
妹ふ　ぬま　ふ　立ふ　ふけ　猪賜
系まふ　刻ふ　孫の　ふふ　正則

石の手洗の水書けをよむ　楚江
鶯鳴の森を尺ばかりてきるひの　勝重
ふすま障子しめしるる時の句　葦香
拍子木手物ふる伝のかつ紙さ　宛岑
涙を尽してる舎の大休　正秀
月新子の形墨の白の上　別
只ちらしときしすの物　重民
物こそふはうの人の秋をあらしを　重古
蟹の仏髪をとる釣尺仕ふ　翁
手しの物ひ友の義　子
きしつ年よきてきのあ書のね　別
二寸の栄のこいハ芩を史意　脩

さしやくてとよのすろき春うし
ちけきつみきうちハ戸を仕て
ゆうちの山子ちそ朱ふ
けちきの人ハうのひ老ちのの
せ先てちはも姫箸放ま　正幸
風止ちうう　成　然
只一ちとしたまはしの舟　秀　江
はしくハ古ぶ杉の功能弱　通　苓
月尺をひてしやうし放立　蕉葉
秋風子細の岩焼石の竈　子
栗ひる糠の夕さひき　苓
文意ちるハちさ拵弱し　脩
通

多くの人々の反古を見よ　重成
長橋の跡を訪ねおとづれ　柳流
時々は　　系
職人の不時のなげきを　結五
南おもてに先づ出る　玉

雪の明け　厨の男動しそめ　去来
一吹風は本紫の　翁
仮引の影のうめを川にして　九兆
狸を怖す藻さらの　史邦
まゐ〳〵戸口出るひとり宵の月　翁

人手もとられぬ物の梨　東
ウ
ちぶくる墨おのづく秋寄て　邦
たれとなく山やまの夕餐　紀
何ものも在方の里　し
里見えて牛の臭ふく　東
ものもとめ手の翁茶の走り　翁
莫蕎の花めでしとちる　紀
吸物に出の未されし　翁
三里ほのぼのを　東
吹まと屋根の男　歌
さし木は　　紀
若ふうの新　翁

ひさうし草しの後之
一時ゝ二ゝの梅を咲きをゝ　紙
ゝ家ゝ家ゝ高ゝ小屋　鈔
火ともし比萩ハ枯ゝ峰の雪　末
ほゝきゝすゝきゝ荒れ野ゝ荒ひう　翁
痩骨のやせ越ゝ蕎ちゝ蕎　鈔
陳を一つゝて　なひ　こゝ　紙
ゝゝ人を松蔵塩ゝ潜ゝきん　翁
そやそゝれの力さしおす　末
やすけ様て陸をかゝちし　紙
おゝひ切ゝゝ死ゝゝひゝよ　鈔
蕎天ゝゝ的の新ゝゝけ　末



他ゝ此秋の時良の砂雲　翁
家の戸や黄ゝ麦ゝめゝゝれて雲を後　鈔
布ゝ美ゝゝゝふ沈のゝゝ花　紙
押合て寝ゝ八又ゝ川後　桃　翁
ゝゝらのゝゝれまゝ春ゝ出　末
一かゝゝ鞦付ゝ皇の　紙
桃枇ゝ古葉ゝ本ゝ芽ゝゝ之　鈔

引起ゝ雲の寸きゝゝ新の月　文華
柳の岸葉をさうゝ　賛　付　支考
罠ゝゝ煙の巣を出ゝゝ　翁

孤山の月は梢の時雨　史邦
雪と見し梅の花の面影　吉葉
残まおろかさ梅ぞ宮の袖　野童
人の尺取はしたはもしい　芳
こよひは舟をゆり起す雪　芝
山百合の枝のさきなる枝つき　秋
尾張をうつす本宮の大松　翁
彼岸なる蓮花ぶくろ　童
うけてうつに呼る豊の火　木
蕎麦をうつ音よまく人を見初る　芝
湯の時賀るうみ　芳の月　芳
糸筋を初て金る秋の風　翁



虫の音へおそ花をこしらえ　秋
屋吹を松風ふくうつ松本の喜　木
舟ふくくくくく　童
小の方器狭さうひく弱る重　芳
盤のかくるる角ふる手　芝
酒入のちひさむ破袋ふされて　秋
物のうけよくあむ行李　翁
うれしきさ蔵方殿も　童
縁おとうまさ蔵方殿　木
投きうし相の秋もまもるに　芝
ひとものの姿てふ　芳
かけはひるやて通る孤こむ　翁

[illegible]の中立の門　秋
夕月をとしの[illegible]の[illegible]　東
[illegible]の佛[illegible]れ[illegible]ハ[illegible]　重
垣[illegible]の[illegible]　秀
小[illegible]の[illegible]の牛[illegible]　芋
傘[illegible]　秋
[illegible]一日[illegible]　菊
[illegible]を掃[illegible]　重
[illegible]　東

きひきの[illegible]　丈草



[illegible]し[illegible]る[illegible]の畑火　去来
[illegible]ひく[illegible]一[illegible]　菊
[illegible]　[illegible]の[illegible]の[illegible]　嵐蘭
[illegible]入[illegible]月の[illegible]み　東
[illegible]の[illegible]の[illegible]　芋
[illegible]の[illegible]　[illegible]
[illegible]戸[illegible]　菊
[illegible]宮[illegible]　芋
[illegible]の[illegible]　東
つ[illegible]足[illegible]二階[illegible]　菊
[illegible]火の[illegible]舟[illegible]の小[illegible]　[illegible]
[illegible]や[illegible]　東

書も本實を終す勝ると
雖ども加へて長更の三ッ歩
ふさけしに其の袖を引さく
冊子は紫書を始め箱筐
ゝ本の梓のみを宜き
二 今川の武威を籠ら洲絹
注しまをする更の不面目
張義を五百文の米の銭
芸匂の者ゝ多かりける
町端の塵掃しをし火を燃す
死をこそれゝ紅父の袋
自ずから儲れ芸を豊の陰



内裏の帳を入し生の子
萩垣の川をさりひる茶の束
ゝ子まのいふ秋の本ゝ
傘取やゝ作ゝ茶屋の和
掛灯さゝく切の粧を
三 坂かゝの庶子に店の先
紀て幸味よ取の扇箱
ひゝゝ社ゝ社ゝ策鞭
ゝ子も酒ゝ鬢者の条物
花咲て行端の嵐壁
代の恥まし汝中ゝ座む

束
箱
注
束
束
箱
注

冬夜於書堂京桃丸興行

咲はそ錦を庭にちや手わすれ花　翁

雪に去民の供物納る　示石

また葉の少けれ京都鳴て　几兆

やらの夜ぞさるおもかたちの声　去来

手やりけりよりとの月の歌人　京桃丸

秋すつむれ出くひの杖　乙州

ウ
寅入よむ長紀の田畠荒れて　史邦

里ちかくなる雪の降しき　玄哉

おし割て犬そふれたる餅　石

奉加すれる僧の竿年　翁

志く川や屏風の去をすおもて　木



花もひらつも荊蘇咲たり　乙

洗濯に傷れ隔く紺の業　州

猫のはのさ此声もうら焼し　丸

上そ上下とて朝おもひ　翁

られきし張の襖ありたり　石

き鉄人すら有を尺ある月花　好春

春の海さす鯛の濱焼　釣

二
昼こり霜ふぬやす帰る　船

雨おろしと南吹よ　末

米ふよふ陽つけし此物たり　丸

夕をかさくてより障ハ痛けれ　翁

くらう数し寝ふらし九十度　非

おさえとつ――て雲を通して
新らしき雲を作るを引き出し
紫の男はおて――えしき
首をとるとて――えまれ彩の
理中に持る孫のまくけ　東
月の面く中の面の面めて石地義　玄
幸を為て作牛牧て
義を為て世を為る家建て　菊
後の為者こ――つるの新　石
法しもちひをふる雑歌めるる　東
るえとの形の風――ける　孫
出白を為を尺――む花者　丸

かるとを手のくる雨を羽をひ　釣

いろしの名をやきこ――ふし者の芋　孫頂
――られて樣の見をさ――ある　菊
婚姻の長――つをさ――ゆく　路通
花やに対面して弥れひの本笠　園女
為ふ樣をとる――む芋　菊
芋の戸やを――て――蒟の海　菊
蛭　多子のする水婚の角　乙州

月代や膝に手を置宵の宿　翁

萩しらけたるひしきり焼　正秀

椑柿や鞠のかゝり見ゆる家　珍碩

秋寒く風に吹るゝ門　之道

またのめに湯入仲間の咄を付て　翁

京人もたゞ一しほの酒機嫌　珍碩

古気さまなる家の振　翁

元禄四年未

其仲夏の日はまさくるしく　路通

盆のならひめにひとく実且　銭香

わの猫に配ら猫通ふ浄蓮て　翁

ほしまれするきぬ張の月　此筋

釣りかはいるぬ糸瓜のかゝるにほひ　千川

仁といはれて渡る吉々宿　執筆

算入て草菴も秋の名を留て　乙

乞食古風の錦る奥　翁

珍しき家よけて覚沖くむ　此筋

脈も柳のしらじらん継の手　路通

此里に持傳へ有はしの子　翁

餅屋をくゆる角の家
はるゝと梅の花の家の
一もとのくるるれば
あれ一ハ塩屋やとまる物もと
乳ようなハ一ハ如手
粧やすいよ人ゝもの
ちもの物をもくるまち
ばの上をと落葉手とる
ひうんを入と雑物
りちうふ中に乗る似る
いとめ神ひの走走
えを紙のかつをてうるえいき

兵川筋通菊川筋通兵川筋通菊

人のあるけを浮る楽もく
かるたし萩の秋の色をさを
地袋さうす本の梅の実
身の加寿をさうつき指ゆよ
柄ゝる毎の底俳ゝる
白人の志れぬ詞ゝるまを
ちゝゝく俳ゝを人の伝
句をしゝるゝ代ゝゝぬし
蛇の家を陣ゝ埋む垂
りけりの花代の上を禁ゝ
赤ゝかゝらを掛る書物
花さけを新ゝ箱を形ゝを

菊筋通川筋通菊

[illegible]あつまぢの餞　[illegible]

梅若菜まりこの宿のとろゝ汁　翁

笠あたらしき春の曙　乙州

雲雀鳴小田に土持比なれや　珍碩

志とぎいはふて下されにけり　素男

片隅に虫歯かゝえて暮の月　州

二階の客はたゝれたる秋　翁

ウ

放やる鶉の跡は見えもせず　男

稲の葉延の力なき風　碩

発心のはじめに越る鈴鹿山　翁

内蔵頭かと呼声はたれ　州

卯の刻の箕手に並ぶ小西方　碩

すみきる松のしづかなりけり　男

萩の札すゝきの札によみなして　州

雀かたよる百舌鳥の一声　智月

懐に手をあたゝむる秋の月　凡兆

汐さだまらぬ外の海づら　州

鑓の柄に立すがりたる花の暮　去来

灰まきちらすからし菜の跡　兆

衣装して梅改むる匂ひかな　曽良

塚もとゝ入口の杉　嵯山
掃き立て清る苔もやからもみも　路通
石のくぼくぼ苔をすゝぐ　翁
角うつる蕎の花を踏ませて　山
ゆくさうつ牧の帰る牛烟　通
蛛のまろ寝忘るゝ秋の風　翁
蕎深かりし道の朽もすけ　良
ゆちきれく蕎殺るる家の猟　山
古の物かたる家の保さよ　良
振ひけく枝ゆてゝれぬ実の寄　通
聟の利喪を河ゝひろ先ん　山
ゆ仕うの風の幸ゝる付ゝう　良

角ゝらひとゝん家の市　翁
物云を沾のぬゝ寄ゝ　通
ゝう　稗ゝを出ハ初田や　翁
蕎のの云家ゝに注ゝう　通
古家の旭れまを物ぬ　良
猪出ゝ信ゝふ寄の雪　山
ゝのれゝゝてゝる悪水の孔　良
形代ゝ生膳若ゝす注連の間　翁
こゝゝ早ゝ宮ゝ家保　通
狩書ゝ云ゝゝゝ不破の寄　良
柱おゝれゝる田の中ゝ小田　山
かゝきゝ痩てやゝゝつゝん　通

てら物がたりしうき世一人　菊山
はなをいとんとされハとまりて
ものをなげて　四つ時の戸の　砂羅　菊良
物をて月をさすほどの夕月夜
面のをのしき　苦の　乗　通
火を焼ハ岩の洞も　氣　菊良
ほをまて　跡　明　氣　菊
おとろふる父の白髪を　通
打ちのをるる　学の　物　山
入をて　ひまの　芽　ものなく　菊
なつ　ものしく　山

蝿　野童
蝿ちの如をや　秋の夕義　菊
蓑もらう　ひかしらの　蛙　路通
小蝶をきりぬ　義をかけ　捨て　史邦
弱しを　来る　魚の　行　丈草
一面ちみれ　くくる　釣舟　通
出るしと　宵中　ちする　菊
歩ひいれ　人を思ひ　通
ををひ　ひをもる　仏　童
物干のをひ　尾ける　軟
ち　ぬ　宗の　小　青　学
夕　写　蓑　蓑　を　通

泥まみれの女のさま絵
石佛いらをうけめぐるうう　菊童
牛の骨ゝし牛ゝ牛ゝ　秋
海の波かなくかけて破れ　通
室の八畳ゝ　ゆゝいつて　菊
みちはくゝはもゝ有のさま　童
唖の去似すゝるゝの黄色　秋
二
餅ゝの友をほゝる青の角　学
糸小ちゝにきゝる色稽　通
物ゝは絵ゝ　菊
疼しゝゝる絵の海ゝ　童
汁見て捨ゝ絵ゝの古茶碗　秋

ゝゝと高ゝ　学
供物ゝ　通
畑の中ゝ　菊
屑紙ゝ　童
松ゝ　秋
やゝゝ　学
絵屏風の小ゝ　通
三
絵ゝ　菊
ゝゝの中ゝ　童
絵屏風ゝ　秋
絵巻ゝ　学
佛ゝ　通

業を清む数はしるべ哉　執筆

清浦の北清て秋空や澄出
月さしうつる鏡のうら波
秋の色ゆえ業を尋ねむ
を拭　常の志ちのうらふる
慶義の学後と人うまさ
又　進しうる魚の焼口
霧風に頭　撰文はやし家
ちりまとさこのすゆうの弱
小侍い伊賀の上野の手ふて

標志
正義
男方
慶子
翁
及肩
楚江
志
義

狂言の社集を弱うさうう　翁
出来合の物振舞んの物言　子
小与　飛ちりそは垣の上　方
名身手かりそうふ御子　義
野風の破の　おくとさ　江
かうそをかけ八ちとさ風　翁
手のふうふうしさふる　志
咲如のくれ夏のおりて　肩
かうさ手さる音の書面　方
帰る物の一うみ物まさ　義
り言手うの弱の旅　子
又うそ言り和上さう和佛　江

[illegible]

[illegible]

[illegible]

迷ひの雲をはらむ学さ　菊
休さ今さ瀧ふるしの点ようく　通
瀧ふる真の信いふせさへ　秋
生干ふる素お弥をすう足さ　学
いりふる家が特の義の石枝　東
秋さて又一さきふるしい汁　童
菅縁ふく伝雷の自　秀
家の初さ中ふる家のふれ　菊
寒ふつふさてうせさふゆく　通
家財ふる家ふる家ぬ花のいる　秋
畑をふりふまふ学き　学
人情学陸ふ思ふさふう　東



春自ふさふさ　俳
ふ紀ふを辻丹ふ俳ふれし　童
紀宮家の時ふ孫ふゆふ家酒　秀
婚ふ子ふ時ふきぬし　菊
ふちふふ咲ふむふ注ふ　通
学ふふふ家ふふ郷伝　秋
時石の妹の去枝ふちふ　学
大ふふ同中形船市　東
ちふふに似ふぬ孫ふひふ　童
ゆふれて女の中の学浪石　秀
義浪ふぬ寺の伝後の自　菊
自ひふふふふふ紀学　通
　　秋

又さいのかちの小菊ゆひむすび　学東
まつの枝物尺ばかりに開しさ　重
酒のけきぬ尾ハ色をうつす　秀
うつひなまのもうとの物と言ふて　執筆
物ハ見れともけてふく

うつ川き稲の種蓋の紋ゆ　路通
ひとしきなる紋すい酒泉の水　昌房
ちつ壁の中ようつ祝うちうえて　菊
蝙蝠の火をともふ夕月　正秀
あのまれて紅者の陰紫かち蓋す　野径

すうつて乳をとらる物のう　乙州
耳ちまやゆうつう嘶ふ　西好
あハ雪うつて朱し怪しう　弥頑
うつ豆つまきと秋とハきるとぶ　盤子
重ほうそ入　里東
田の中ういうのも野のかすい　探志
芝居の札の米ゆ色ようう　静力
沖嶽ようかふ角ゑ松の色　秀
松ちそうそむる帯の綻ひ　通
月新ゑ二ゆのゆをつゆ物て　ふ
芋麦の自ひのむきる下淡　東
沼岩や海まの苔乳さうく　丈

[illegible]る菊水の旗子
[illegible]の勝ふ[illegible]ん勇
豆[illegible]上多[illegible]けて宮行頃
恨る義[illegible]を伴て[illegible]州
くもれと拾しもの後[illegible]通
[illegible]の[illegible]の[illegible]菊
御のさし[illegible]身の廻廊勇
[illegible]の寄[illegible]の[illegible]子
[illegible]れ神[illegible]を[illegible]州
[illegible]と矢[illegible]を[illegible]す出頃
白[illegible]さし[illegible]いけ[illegible]跳き菊
[illegible]の[illegible]を組て



[illegible]の[illegible]伸る作のよみ除徑
文八文二史文選[illegible]し[illegible]通
[illegible]保和し[illegible]屋の[illegible]れ力
おさ[illegible]嵐を[illegible]し所
[illegible]辰[illegible]むた[illegible]子
内書[illegible]ハ玉[illegible]を[illegible]の船頃
蓋のか入[illegible]やり[illegible]徑

元禄四年の秋角業[illegible]蓋[illegible]菊と
[illegible]
[illegible]ぬ[illegible]ハ[illegible]白[illegible]の[illegible]松　斜巖
[illegible]の[illegible]の[illegible]行

一事の仕てハ麦を打さかりて　菊
かゝる　雑　歩を出し　荊口
歩進てう射て出るうゝ　文鳥
山　雀　蕊をさけるゝ小坊主　此筋
秋風に揺うけ後ゝ長いうを　左柳
夢の上を　笠の雑て　ふもし　悠風
恒隅の　雲　雀　ゝ　ゝ　雁の　縁　彩
念仏の　寺の　河　ゝ　ゆる　残香
わうれんと　ゝ　ゝ　小　柳　ゝ　千川
おさ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　菊
れく　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　口
米つ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　岸



義おろする八寅をあそゝひ　義
ゝけ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
柳　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　菊
用利て　ゝを　ゝ　ゝ　ゝ　柳

そ白い　柳　ゝ　ゝ　ゝ　水仙花　菊
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　白雪
柳の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　桃隣
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　芹雁
せん　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　支考
柳　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　以之

ウ 扇形をもつ
仙ゝ
ゝひ中ゝ
ゝひ鼻ゝ
ゝてやる
ゝれ波の
ゝむ弦
ゝ葉い
ゝちめ
ゝ夏
ゝ扇の
ゝ形の
ゝ花ま
ゝき
ゝ歌
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]の春ハ[illegible]新酒を志[illegible]
[illegible]る法[illegible]ふる門の外 咀 乃 之
千[illegible]遠[illegible]一対面 先
色のとうんして[illegible]小梓 重
咲志千物[illegible]のさらを拾[illegible] 寺
材を鍵て 紀る[illegible]の 松 水

比里の山を田面や[illegible] 支考
[illegible]て[illegible]く[illegible]炭竈 清水
いかさきに[illegible]る一種の松を[illegible] 白雪
清[illegible] 恋[illegible]む紅の春 清 雪丸



[illegible]て[illegible]の[illegible]月 苔雁
[illegible]る 笑 [illegible] 門の[illegible]の[illegible] 桃隣
小[illegible]の面[illegible] 蓮[illegible]の[illegible] 先 扇車
[illegible]れ[illegible]下の[illegible]し 以之
[illegible]する[illegible]を[illegible]る 桃先
安 [illegible]を[illegible]の[illegible]丸世の観音 桃後
[illegible]人[illegible]の[illegible]し[illegible]て[illegible]ら[illegible]小袖[illegible] 翁
[illegible]く[illegible]く[illegible]谷の[illegible]系 考
[illegible]の[illegible]れ[illegible]を[illegible]し[illegible]て[illegible] 清
[illegible]きして[illegible]る[illegible]の三[illegible]月 乃
[illegible]物[illegible]笑[illegible]夢[illegible]情[illegible]の[illegible]の 丸
[illegible]の[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]き[illegible]ハ[illegible]る 寺

花蕊て物を云ふ事もえ上ず
まゝもいくぬ火鉢の白菊　桃雄
雖と堪こらへうるまゝ
後ろのためる味噌の無物　水菊
ものを書て書ぶ筆をそなへる　之
四つの杯を如て取仕る　重
海外に隔る年月ゆゑ　坂
秋風蕭々義郎の笠　先
黄麦畑の黄ゆゑ笠付て　鯉
小つゝのみくきえ心の月　丸
きりゝの意ハ可見ゆゑ見　青
乞食とゆゝて夫婦かゝふ　菊

さゝむける宵の雨の降ぬ
きれゝる信を抑ゝ
素湯ひゝつおかる尺うけて呼ゝ
荷を担ふ人の〻ゝ
負ゝとり向の方れ出ける　寺
杖の音ゝ　ひゝる石　坂
念仏ゝすめ〻ゝ　雨の友　重
まゝいく度の保ゝ　水
先
隣

菊の仕度をむく赤子起き
ゝゝと遊回て
夕仙やきろゝ降るのゝも移ゝ　菊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菊　瀑　不　菊　砂　不　芳　菊　不　瀑



砂　芳　菊　砂　瀑　不　菊　瀑　芳　砂　不　芳

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

澤　不　菊　珍　芳　澤

以上四十句

元禄庚午の年本の日に付て能て
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

峰て寄せて寄せて

[illegible]　菊
[illegible]　句空
人足の[illegible]　去来

芽[illegible]　丈草
[illegible]　菊
[illegible]　去来
人の[illegible]　凡兆
[illegible]　乙州

湖水より出るもの山の上　菊

流れていくとる人　文草

あるよりあとの友うらしるる　許亡

れく流れる水の梢うち　露川

小まるそよぐみの出　菊

蛍うつ源や流て蛍もみち　菊

一歩志ひかる張笠の雫　李由



木のしたもとをあるん一雫　規外

四方　夕の竹の雫　月　菊

竹の陰ものの秋ふる業出ル　菊

ものハさひしき茅屋一もと　如行

俳諧一葉集附洛々部四

古夢庵佛号
幻窓湖中　編
坎窩久藏　校

元禄五壬申

[illegible]する様の先　翁
[illegible]の[illegible]う　支考
[illegible]入ハ[illegible]入と[illegible]
[illegible]第一　指し　翁
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

ウ

高の倉すくうつ刈れ穂き　秀
葉ふみ写すもたらきふひ　翁
くさくさと高する物を笠やる
瓦うよ紙い結彩朱紙　〃
二三年立のハ笠はそてく　秀
数をそかし〜そ尺ちうく色　〃
空蒙うそ以結つける笠の月　翁
蝶おるきぬハ角カ丸の笠　〃
今年の田〜池くやう乃の傳書て　秀
秋時の星のまさひとけ　〃
佛供手巻信今も笠ふる　翁
白いはく〜と紅の紙入　〃

二

傾城の傘おす側ふうう　秀
手鞠を持て人の笠を　〃
外結ゆ紅ハ初の〜かふう　翁
金をふり〜紙をつる金　〃
松風のすん〜と岩ヨ門　秀
物ふらゆふと岩ヨ門　翁
傾ハ笠のやうふ笠るま水鉢　秀
る一匹手笠ふるま水鉢　〃
小湖市の時うふ笠ふる　翁
痛ふ多けきハ女笠ふる　〃
むふ笠浄〜以月の入うう　秀
時の板ふう牧板の之　〃

二の丸の実ゝ　やく童屋敷　菊
白き あるゝ　てゝ　ゆゝ人の　鈴は
さゝゝと　茶碗の　食を　喰ひ　秀
口上　いゝて　うゝ　茶　黨　い
ゝ所の　ゝ　さゝ　ひ　拔い　菊
ゝ　ゝを　載て　ゝ　ゝ　書　拔
ゝ

ゝゝや小能の　ゝ　ゝ二段　淋風
拔ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　株　菊
足　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　沾邊
刀の　拔ゝ　ゝ　ゝ　狀　茶　利牛

食傷の後を　ゝ　ゝ　ゝ　ゝの月　風
度　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　菊
小　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　桃隣
ゝ　一　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　牛
蒟蒻の色の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　菊
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　菅良
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　菊
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　涼
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　牛
義を　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　隣
月影の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　菊
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　菊

雪掛の峠なのうつくしき花の雲　良
うふも此雪ゆゑ蕨まつ内の　保

あの多年松と樹や苔の餅　翁
翁子なれし蛙の次　嵐雪
聖耳きの大磯ゆゑ陰の海苔　其角
山の内あるじの陰ゆゆ　翁
亲こい子角元の弱の子の　雪
保ひやうすうきれしの雲　角
侍雪ゴお撲はあるさしれ　翁
常ところ金のしふ　雪

寒菊を主人初激筆の白雲大小　角
豆ゆゆ此雪さの寒保　翁
海ゆゆ杖子かるる　雪
剃やとまふ老の紅表　角
まけ年功者引て鳴し　翁
ふふひ寒の内方　雪
尺尺して牧牛（遠火角の友　角
尾の結ゆゆ小家無　翁
一通ひの志此炎蕨て　雪
日永ゆ炎る時啄や寒案　角
嫁子繰ゆゆきん弱法師　雪
お腹丸中一ゆ仏元之ゆ　翁

船を漕よせて　角
堀切の河の入口　壺
女房共ふる米屋の寄合ふるやうす　菊
市田の宮講ふるやうす　角
夜宮の一番の家台拵さる　壺
多くの紅燈の石菖と共ふる　菊
牛の子仕出せうとて市の中　角
江の橋際の田舎陸尺　壺
とりもちと夜ふる入角の鐵砲　菊
いろとりとりと暗のゆくらん　壺
鰤ふるの四条歩荷の書表　角
すんすとのひふる男兄弟　菊

一ふるいハ江戸をとりとのふる小唐ひ　壺
みふふふ―ふて市の門市　菊
宗ふと未来をと極ものけ　角
三人吹ふ表のなふふし　壺

芭蕉庵舎

風体のよふふ紙帛や明ふ　涼葉
旅の宮雞ふふの茶の至　菊
砂川ふひふふ又釜のかふふて　青山
門ちりひする醫者の兼おさ　蓑良
月の取ふ足しぬ光を鶴し　渭子
きろを弱風をとハすしき　嵐蘭

産業蹟のまとまる金の中　岱水
めるみひとりとなむ陸尺　妙水
うりめる人もこしむ契うて　嵐雪
てゐもいるう仮名名を去　葉
り牧を頂て新をかくし合　翁
木賃泊りハ不残をまるる　怒誰
入うけも預ん言ぬの郭の月　良
塵をいゐて言れ言ん　人
られるさ陳ぬ白を挽むしぬ　山
小船の文を送る村し　妙
叶花手お指屋やうめけむ　子
寺のられ木をあのまま重れ　葉
　　岱





入物も田隅手似きて牛荒　紫
かうをきけハ元合を木　亜
長うるぬ華人倉の変変　山
まさ寺られて住居苦き　亜
火桶すう和ぬ駅の景清琴　子
美麦の粉ふる翌の振舞　葉
返るをぬ手残ハ掃て拭めん　亜
おうけさ点ハ多のおゐよ　紫
貴客手風ていい付いせのお沙　岱
先々和ようお秋の文れ　良
柿尺要の宵麦人田つ居の月　翁
俗うつれて小舟うこむ　山

ウ

松の尾新まつる雅の童　重
雅楽の岩手踏む鈴　茶
ひさしきうよ中を宮れて　樂
きけん春つ酒をもろ　鈴
やよやよし為まし盛もの巻　子
巻をこふる社人千怖き　良

終のをわ祝をゆきし雲の色　史邦
おのれしと姫切帝　止　沾圃
外義しさめる月ハ如ものう　菊
郎いはゆるす板の百　夢可



さやうこそ酒くるる恵の物を食て
栗丸きる川上の　山　秋
ウ
ところしと那の松のしき石拾ふ　可
ちを踏れハ百さ麦を　菊
雨をさころく咲る花の色　秋
組父の明ろ　繁千をつく　沾
る鉄ろれ貧を紅ゝ巻を咲て　秋
結ちをかくる手こ　の宮　可
ぎしと宮ろ　ふむ巻の傳ゆう　沾
尺寸をとくもてめぐるむちる　秋
鉄拵を戸塚の為の傳　る鍋　可
後疲病のよ　ふゆうさけるる　菊

すんすと昔代をくむ花の色　沾
をうつのすがたぬ侍梅の雪の物　可
きぬ風に吹ちらす繁盛哀　秋
質をふうる百寿の家　菊
いろ所く痩しる魚を化粧し　可
蕙しうつし白骨塚の秋哀　沾
樣古風解ちさて八重の春　菊
弁当所とくもの居所　可
うむるの休憩十雷を雪とし　沾
名古屋ゆく通戦の男子　菊
桝をもみちの松の百しを　可
役をめぐる青の月蝕　沾

おもとねの上さく風八重の志みて　秋
おもしろしけこもたひおくる咲　可
動めとして去て塚の四つ手　里圃
文を小姓うしたるの明　乙州
白梅ハめつる去社みわいむ　沾
縄てうしけし家ゆうし今　里
梅雨の間かるうまる花さうう　州
来良ハやつる八重撫外　沾

撫子ハ今に寸きやす殊の春　史邦
菊一斗を稲のこゝハ　貸菊

蓑の笠に醤油の樽をかつぎ　盛水
荻市に人のしるべの夕　月　秋
木刀の吉野しるす唐金の　蓑　翁
二階にこの蓑に暑　板　水
言葉に筆の言を吹き　秋
石丁あれハ学舎ちの雑　翁
手角に野笠をかんぬ唐　水
味噌をもとめぬ小松魚　秋
風雲の隙の紙蓑唐山く　翁
秋入りの筋奇いとうる　水
塩漬に降つよりさう青の月　秋
学位千ふるしちのいさうひ　翁



村雨の新刈田の　水
去るくゆるゆるそそぐ物　秋
花に残る一夏書おかもし　翁
小姓のはれ去を　二　月　水
竹橋の内に雲ひ　嵐　穴　秋
雲の峯このく役さいとの　翁
夕雲に洗濯　賃を投げて　水
とりめるこの　祖母の昂い　秋
横うつまれハ打ちひ深　翁
ひのうさ　翌ハ　白ん　水
新蕉ひの文てう床る　秋
百里そ中し　船のきぬし　翁

挽うしし去休材木のけはひ　水
まさをそそられぬ中ハ生　鶯　秋
ふるさと語る雪ちる丈の　菊
紫ふをやちて略のけりを　れ
柳ゆ植ていろはうつし　秋
降る雪るやうなる　菊
加南雪降雪のけりさう　水
二歩三ゐ社　強るゆうつき　秋
寄て芳野やめくのもさう　水
百姓やすむ苗代のひま　菊

草庵懐故人



名月や篠ゆくれを待　濁子
宮子　枕のしらぬ出よる　菊
秋を語て越ようさやる石の色　千川
まさふふれの海のこうこ　源葉
端ゝぬ鼻弦雪むふとうこ　世筋
めれハ坂のこにえる　徹　子
猫人の矢矢のけとまを振て　菊
まさ出ようる重のちゝ矢く　川
入口社強ゆうのれとるのむし　筋
きうこのひ響の強板をとく　子
舟こうう鮫くハいてみまゝみ　紫
柳ゝ名こふのゆゝひ帷子　川

仕尺やしけりもこ袋の座抜て　菊
免て　のこゝろ　秋　筋
月影ハ笠ゐて男ふ烏帽子数　子
屋の夢の古いこゝろ　春　川
花咲ハ木ゐるめを引すりて　菊
かゝるこゝろぬ去の面風　筋

動茸やゆこゝろ変ぬ秋の雪　菊
まきまきまきて宿る谷川　岱水
明ふゝ屋村の多地さゆて　史邦
さこゝむ月ゐ蕾瓶の蕾　半歌

塩付て鍋ゐ　ふ浮ゐの蕾　枕　嵐葉
撰ゐこゝゐ華のひゐゐ　菊
ゐこゝゐハ出村ゆゐ久ゐ蕾　水
近付の蕾ハ浮ふゐの宵　秋
弁当の菜を出をく石の上　嵐葉
やさしきゐ咲ゐ雨てし　葉
ゐ村の蕾ゐ見ゐ丸く移て　菊
物ゐうちゐ月ゐ見ゐ　水
月蕾ゐ面の降止ゐ　秋
ゐ鍋の後ゐ浮丸く蕾大豆　葉
絹出ゐ月ゐ赤ゐ　水
春ゐ茶ゐを出ゐ小坊主　秋

花ちるやかなしさ[illegible]ちるなのこい　菊
ぬるてをぬぬ[illegible]ぬるの[illegible]わら敵
吉風を吉敷ゆゆゆ敷葉居　葉
春はるるすす伊冊詰白　水
弧孫ゝ砂弟　菊のおもて紛　菊
見蛇は孫ハ砂けん物役　紛
[illegible]てをはるゝ本葉の[illegible]　菊
嫁入するるやゆるる引　菊
袖ぬるゝする孫蛇ぬる葉さ　葉
月をるひゝ吉醤袖ぬ粕　水
菊糸き百石ゝれ門すひ　菊
るるすゝかけるる意良の坊方　菊

かるるる屋けるるるる係面　紛
尺るるぬるる生のるるるひ　葉
出店ゝと又ゝ陸屋のるるれて　菊
干物はるやる特色ぬ紛　水
ま拭ぬやまれてるれをる屋り　菊
弦菊をかるる板菊の上　葉
人つゝく毛利菊川ぬ花さる　紛
ゆゝけんるるきゝの菊ひ　菊

きくてもるくる物をるるし　菊
提ておるるへ秋ぬ新秋　洒堂

雲の月樹のこゝかゝよりて　嵐葉
枝ごとかしらの先まで　盛水
松山の波ハ清しの吹こゝろ　豊
結姫の昔をこゝに川舟　菊
[ウ]紅葉の深くこゝる小夜嵐　水
ふるゝ月清うして清ふ風も　葉
掛乞こゝの外もなきやや　菊
翠竜こゝ尺こゝこゝかゝ義の秋　豊
幸嬢ゝ山巷に義の中うゝ　葉
正幸義のむし風の樹さよ　水
月のこゝに先ゝ有こゝやゝ　豊
きゝこゝうゝ強おさこゝ　菊



倚ゝふ義花の雲の釣月　水
敢義のお山のきおゝ雲　葉
ゝ清めゝこゝこゝこゝ　菊
義こゝ年こゝ雪の海ゝ花こゝ　豊
[二]町井のこゝ石ハ赤くきゝこゝて　葉
吹こゝこゝこゝゝ地分郭こゝ　水
華元袋こゝ地こゝ清雲秋の雪　豊
伏尺ゝこゝの音こゝ風の月　菊
玉こゝの玉苗こゝきけハ怖しや　水
義話こゝこゝ紅鏡歩末こゝ　葉
山伏こゝ切てこゝけこゝ軍の義　菊
強持ねハこゝ清ゝこゝの井　豊

つゆ合ハこれ上戸なる歟ゆゑ
さゝ酒とあるゝ乳酪し　水葉
のゝ物にあ当ハ乳牛ゆゑ　豊菊
主と見て所ゝ芝の大日
樹相さを四ゝ蓮の人の寿　水葉
むゝ名所ゝ蔭ゝ緑さけ四く　菊
不野ゝ池館創の寿の本紫市　豊葉
杉紫をうゝえゝもゝ古寿の出　水
朱五外人ゝゝれゝゝもゝきん
きゝのゝゝゝゝきゝゝ蓮ゝ



苅株や月四の上ゝ秋のゝ　洒堂
蓋ゝるゝゝゝ代蓮る　嵐竹
衣樓　梯ゝ寿の蓮ゝ　菊
蓋ゝ寿ゝゝる芝の寿　雨
古戦場月も部ゝ堤ゝ　小鯛
ゝゝ尺迄ゝ蓮寿の蓋　嵐蓮
さゝ伊の門の樹千ゝゝ　豊
蓋を明れハ弼ゝ　入　虹　竹
きゝ稲ゝ肩　休ゝゝゝゝ　菊
水仙ゝゝる房州の傳多　鯛　蓮
鮮清ゝの蓮四ゝゝ寿の上　昌房
蓮ゝかゝふる鯨の桶清　西秀

小野氏内侍加[illegible]紅葉　阿部
錦を[illegible]れと身待の窓　掠志
物[illegible]ほすに添のらさき　湖力
[illegible]いかく三方の鹿汁　野径
[illegible]の月射茶より漏防くれ　去来
[illegible]くれの[illegible]のうら　吉雨

十月三日伊丹亭無[illegible]　翁

[illegible]人[illegible]より紅葉
[illegible]仕[illegible]ら麦の[illegible]　許六
[illegible]宮を宮[illegible]小松の[illegible]　洒堂
汁の[illegible]れ　盛水



宮の月おく入[illegible]と古　蕉
先工夫する牧帳の[illegible]　嵐蘭
才汁の侍茶中を惜れて　牧童
[illegible]小[illegible]月[illegible]　水
物つむ[illegible]の紫[illegible]　翁
[illegible]礼をの[illegible]赤[illegible]の入口　六雲
水分ハ[illegible]人[illegible]　葉
[illegible]ひの[illegible]　水
[illegible]の[illegible]　翁
小[illegible]蕉の[illegible]　六
八月ハ旅[illegible]小[illegible]弥　雲
[illegible]山[illegible]の[illegible]の[illegible]　葉

[illegible]
[illegible]
[illegible]

流星子家とりあのつく家うれ　細堂
緑鈴寺ふ　ふもむもの里　許六
ふきさ西陸子の路をつふ米て　菊
きハ年ハ七ふきもり　嵐蘭
月のひ石ゆもひ　六
葉地玉家子　典家の雪義　歩
おゆ玉ほんの也ぬさうう　菊
梶の葉とる葉子作のま　蘭
西高の家豊　仲林　歩
もう　嘲子　歩郎　注する　六
きぬしハ宵の踊の浦をふて　菊
東大多の月ふすき　俳　蘭



青蛙の核子やとす家の方　六
二人の枝杖　仏先子　注く　歩
家うけの提灯　志ます　新義　蘭
沒さしうる星川の　橋　菊
村そも田面の家れまゝ　之　六
塚のうゝいめ玉つ石　原　歩
雲雲信の沙子ぬうはふ青の未　菊
ふも妙乳し　今川の　家　蘭
うつ沙提樽の風をよゝ無　六
又青ゆうう四玉田面ゆき　歩
新家ゆめをうゝ蓋の志　蘭
ようれし絢子うう麦の粉　菊

[illegible]士をかけの為にきせ戸のそば　春六
月夜にて梨を洗ふをみむとし　翁
火ともしつゝ祐助とふ俳友　
先稜一のくる手の物　朱葉
うつすとて門の瓦手を洗て　六
寄觀るそかう時を見る　春
そそろ寒の梅を見遣る　葉
春雨の檢を淡もかくる　翁
よし垣に木を伐る塀の内　春
なハ赤うもる二月　翁　六
初花に侍者の蛇の衣を見て　翁
柏樣さらやく宝川の上　葉

支梁亭口切　翁

口きりに堺の庵うふかき
第尺ふる黄の雪　支梁
山雀の笠を強くふるまひし　嵐葉
秋の外に旅人の嘶き月の出るまち　利合
大戸をひけるもの裏　西堂
鐘の玉の裏を青拾へ　岱水
何ふるの梅を袖初し　桐宴
みとりに手六田の板に植て　也竹
うけ葉を矢く歩豆の汁　梁
翁

こゝろ和る雨もしとゞ蝉の羽　合
擢ふくゝ杉の梢　雷
さゝと陽炎しる石の上　水
洗て元合の手やすき月　葉
行雲の出門雨を秋立て　雷
家子打けむ一瓶の清　梁
雨ゝ入花を流の百里庭　竹
苣の二葉のかゝてほのめく　宴
杉をハさ手の卯月迫くれて　合
咲子やさゝ釋迦堂の雪　雷
咲初て寺のふゝもとゝ猫ゝ　翁
ゝの流の枇杷のうすいろ　葉

九畳ゝ頭まゝ加の松　宴
きまけ子法華を立る社家町　竹
ゝさゝに鶏を背ん　雷
みよしの方はれ雨ふ川に　梁
ゝはゝの縁の雨子肩寒し　合
ゝん黄ゝゝる門前の坂　葉
法ゝの物煮て咲ふ香の月　翁
上毛吹ゝ志ゝおゝの響　宴
谷傳ひ雨ふ一つけゝる牛筏　竹
方刀持はゝゝ二ゝゝゝ　雷
物ゝゝすゝれ新ゝおゝ也　葉
多子かゝゝゝ九美の　梁

花さそふ海宝の河の人通り　宴
青と業とわの神を祭し　執筆

木ゝにうめる百重丈入沼　荊口
毛をひく蛇のまるやう板　洒堂
掛乞の中猫をそうかをそ　菊
蚤しハ木履たくゝち　此筋
梨の枝おもをハ雪の月　左柵
梅をいろゝ苧かゝの屋け　犬舟
秋風ゝ　祭　枝　梅ゝ　千川
蔦のゝ　梁の　ゝ　菊

六月のゝ四位　枝の木　壷
ゝ蔦の入し　蔦絶ゆるまる　枝
祭繁ゝ　蔦ゝ　繁し供まる浮古宗　筋
箕面の滝れく　くゝ山　禅　川
蔦ゝの弱ゝ　おゝす簾の蔦　舟
俳ゝ豆の　蔦を志こく　秋　壷
月代ゝ小ゝ　き里のゝ乱除　川
ゝ織ひゝゝ　ゝし豆の形くゝ　筋
豆ゝゝ　ゝゝれぬもさゝ　枝
蔦の上ゝ　ゝ　ゝ　菊

あるを見て油ハ絞りをおそるゝ　凡峰

白波さゝやく芦の葉　し　菊

中汲の磯をゆくのゝ棒さけて　酒堂

内の徒手皆捨てし　峰

嶋吹ハ板の宮こゝさゝしと　菊

板の庇うに雨をもぬる　雪

ずれ戸を袖口あらなの鶏　里東

果ハうれしく撫るの　菊

法如して去恵ふるの鶏　峰

沛余代もし強合を　東

門てゝ吟るのかさう試砧を　雪

むしろもむれとつゝす陰鶏　峰

山うけをかれて小ゝ生の扉　菊

梨地をかけ出吹のよけ鶏　雪

名月を雲井の格れ一さけ　東

もしの米を宵ふるとも　菊

花千本し家ゝ名を佛法ゝ　雪

去ハかゝぬ三稲の人船　東

頃先の庭千撰ゝ板ゝく　峰

多もむ衣千芳蕾ゝをく　雪

きんゝいゝ娘ハ海の物ゝ　菊

恵の功ゝれを尺ゝ和物　峰

珠代の雨ゝ志ゝ風ハ鶏て　雪

多徳ハ伊吹て言ゝ秋風　菊

夕月の高嶺をおろす雲の去
聳ふしたする賀の山入　峰
麦めしと文ふ飯を炊きけて　菊
陶引する川舟の舳　峰
性子風と流れ中小姓　蟲
明の時迄るをを炎暑の文　甚角
美しき春の白山を似きて尺う　峰
人間ふらと引きくる珠玉　蟲
一点の地主樟の花さう　角
猛きものさまきまてきしめく　峰
学そこのろの百いとしの百　蟲
果且恍を鼻　秋の百　角

十二月廿日即興

却ちて花入松乱梅山茶　菊
咲こむ中の初恋の面　影堂
月ふ人の者を引くく　甚角
明初めよきゆふを強ふ　黄山
夕月の色ふけ弱う絶屑　桃陳
出代さて秋そきけ　銀杏
四ふうきあんぶゆ植の去　堂
屑く美しく智舟の祝　角
足文ふ茶ふ明けの色　杏
茶を煮く廻す伯陽の学索　菊

六張の反古尺しすく枕して　山
はめしに猫の子をひろめ来る　陳
むりしやうさまも嫁の点　棠
現は度と言やせうつ　角
夜の雨蛍のうくさくさむ　菊
三寸の鉄つをきしもむ　唐
まひしつと嬢をやう新の月　陳
二年と菊とを手をさうる疲　角
おろかまる和尚さ友を秋の花　棠
言ふ子水をゆける寒戸樋　杏
山をめてうしてうは静し　山
鉄つのしつら合歓の六雪　菊
　　角

かけむる鶏屋の林のいろ乱し　山
秋さそ如船子屋の汲侍　杏
寒色やと背洞家の宴うて焼　陳
蕉子夏子以ふ多を知れう　棠
尺ぬふうの夏人を老を知れう　角
すうさ寒分かくはうすを　菊
秋しを星を皎て歌の角　棠
ううは山ぬの春俳乱　山
杜若を直江波うは浦山子　角
直宗れすすて江波うは浦山子　杏
老うる八湯窟ふ郎ふ郎　菊
花の蕉みうし柳の柳光妃　棠

付さしを中てたふる柳の色　山蕉
故郷の新のまゝく三　信蕉

源川芭蕉庵

身代をいとくやしむ朝顔　千川
小松のかしら抜ん角山　菊
牡鹿鳴鹿の遠耳のきゝて　此筋
角吉白子海手ゆゝ川　左耕
海とゝ水流の板屋と一里塚　洒堂
そゝり手相こゝむかとゝのしの雑　海勢
物ゝ乞ゝ鬱むゝ乞ゝ身雨　盛水
黄際うゝしゝ南天の花　川



笠とられぬ雨の数ゆゝむ雲雀
ふゝとゝ急ゝいさむ大海　嵐蓑　菊
言餞ゝ年穿鑿ゝ穿鑿ゝ
居風ゝ雲ゝ雲ゝ雲ゝの海出し　板筋
鳴ゝさ行ゝ元みゝしゝるすけゝ能　勢
貸ゝ家ゝ病ゝの病ゝ病ゝ病ゝ病ゝ　水
住ゝ宅ゝの海みゝさゝ船ゝ船ゝ清入て　川
一夜の清ゝ宗ゝ有ゝ宗ゝ　菊

世ゝ不ゝ二ゝ身ゝ海ゝ二里の旅　素堂
苔ゝ子ゝ小ゝ角ゝ豆ゝ　おのゝきゝ　露沾

[illegible]の[illegible]瓜のかさまして　菊

[illegible]の隙を[illegible]中佐大相　許六

[illegible]さし　[illegible]の小豆の　蝶　菊

[illegible]を[illegible]て[illegible]　蔵葉

[illegible]　桃の花書む　洒堂

[illegible]のこゝろ　[illegible]　素堂

[illegible]の[illegible]ふ[illegible]　菊

[illegible]の中を[illegible]　[illegible]

小賢情[illegible]　[illegible]の[illegible]　芭角

[illegible]に仮の[illegible]もの　渓石

[illegible]きさする[illegible]の[illegible]　菊

[illegible]　[illegible]　蕎麦

[illegible]を[illegible]　盤子

[illegible]の中　史邦

[illegible]の[illegible]水　去来

[illegible]の[illegible]　文草

[illegible]の[illegible]

元禄六癸酉　涼葉

[illegible]の縁の非を[illegible]　千川

[illegible]　菊

門雪の[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]目　初紫

三[illegible]の[illegible]ハ[illegible]　菊

[illegible]の二[illegible]ハ[illegible]の[illegible]関　菊

[illegible]き[illegible]　丹

うゝみの文を[illegible]の[illegible]　川

[illegible]ハ又[illegible]の[illegible]の上　菊

[illegible]　紫

[illegible]　桜

[illegible]　牧草

かゝうさぎ[illegible]　菊



[illegible]の[illegible]　濁子

[illegible]　深草

[illegible]　野城

[illegible]　利牛

[illegible]　宗波

[illegible]　曽良

[illegible]　菊

[illegible]　子

[illegible]　牛

[illegible]　波

[illegible]　波

[illegible]　紫

はるかなる和の浦の初春の　良
秋ちかくなりぬれば　菊
清澄しかすかなる夕の空　椒
吉和うらの雲もしも　波
風の様をたづねふる　菊
きぬの色十さえ　子
沒平をむかえ　坡
弩舟の一人ハ　菊
先手拾う為れとうけき　牛
むかうき菊を　紫
九はすうる　菊
枝をも毋うて　坡
極めう　牛



木綿ふるゆ之　菊
是ハ清ふ紅月の　子
秋ハ初ふ　良
念仏をちひさ　牛
四五十ふ　坡
義かけ　紫
為ふ　菊
男ふ　坡
寄入ふ　牛
切株ふ　子
功ふ　良

正人拔打ちて志ゝ[illegible]ゝ樹ゝ[illegible]　野坡

なゝ（ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の吉　菊

雅曳の身をちらに山ゝて

てゝゝをゝけゝ[illegible]ゝの[illegible]ゝ　坡

咳ゝ[illegible]ゝて[illegible]ぬ小の皇　〃

流利ふふて酢をうゝ[illegible]　菊

九三季船ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　〃

境めゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　坡

去白ゝ松ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　〃

うき巷の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　菊

夜綿ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　〃

裁入をゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　坡

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　〃

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　菊

ちゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　坡

吹ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　〃

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　菊

さゝゝゝ

ふと小雨とかうつうとして
おたくろうを繁いて中戸さし明よ　坡
むのの紫顔をハ若とやむ　翁
市家をそこうとなくきもらし
神おもひをなる　坡
月うけの小岸　伊賀のさそいき　翁
繁美折ちうをなる孔雀
ちうしと相の紫蓋をまを沈
古仕て沈る釜の鶯古　坡
沈とうをおこされて幾振り　翁
猫可きうる人をしし　坡
沈の出れ茨如工夫うをうをハ　翁

掃月のこういろくしの塚　坡

八丸百ちて雨沈掃す　翁
青の形れをしけるる　治圃
部篇ちうをこの羽彩美を　馬莫
内をとうをつく吹の板　里圃
きのふうをいろ和るる月のいろ　治
狗肖うれて肌雪ちうる　翁
志ふ柿ちうハ沈を狂ちう　里
孫ち沈とる祖父の侍　陳　黄
狐をこうして沈ちる板刀　翁

楪　我　之　ハ　之　や　鍋　の　ふ　ん　法
約　束　の　ふ　ち　一　さ　け　実　に　茶　て　蒐
十　里　法　の　ふ　け　よ　ま　へ　む　の　ふ　里
茶　の　紫　子　少　銀　摺　て　お　も　ろ　む　法
て　直　所　外　と　門　の　生　付　菊
何　ち　へ　ら　落　た　は　法　ら　む　銀　坊　立　里
茶　門　と　は　の　む　ま　す　系　の　ま　生　蒐
ふ　の　子　お　ふ　ま　し　茶　の　た　て　ゆ　ひ　て　菊
尺　子　に　摘　小　箱　は　え　に　法
二　吉　茶　蒐　先　茶　む　ら　付　た　丈　蒐
所　お　は　ふ　間　ま　ま　ま　ま　と　逢　里
た　お　ま　茶　の　仲　百　そ　ま　し　と　法

くくくく

手ひと火入れ蔵すまもの　治
花ハ春ゆふぬ春の夏ちれて　英
撒ちらの花ちる頃ちの水　里

涼川ちうて

宵宮の花火ちう麦の隙　孤屋
屋の夏鍋のはすの涼川　菊
上張を通さぬ仕ちの雨降て　盛水
ちりと取けハ酒の家　中　利牛
霧雲ち降ち秋ちぬ青の月　菊
ちうちと蝉のころふ秋風　孤
きりぐすの蓑のいちう降もて　牛

吹の仕ちる北上史するし　水
姉をちゆ雲ちうちふ　孤
信玄の行くえふみをやる　菊
風ちうち鳥の帰ちう　水
京のふうれち祇を尺ける　牛
鶴汁蓑ハまのちうちあて　菊
蓑のうひ笠をまけて雲ちう　孤
此夏ハちうちう蓑の静かる　牛
うれし物をちちうて　水
雲の行吹ちうし紙月　孤
蓑墨丸めし物ちひる　菊
不屋丸陳と中おちう朱　水

[illegible]

生　菊
[illegible]　孤
[illegible]　生
[illegible]　水
[illegible]　菊
[illegible]　孤
[illegible]　生
[illegible]　水
[illegible]　生
[illegible]　菊
[illegible]　孤
[illegible]　生



山の紅葉の
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

水　孤
[illegible]　生
[illegible]　菊
[illegible]　水

十三夜　嵯峨　[illegible]　濁子
小袖の　[illegible]　[illegible]　曽良
焼飯　[illegible]　[illegible]　菊
[illegible]　[illegible]　[illegible]　史邦
[illegible]　[illegible]　[illegible]　秋風

[illegible]　　盛水
[illegible]　　凉葉
[illegible]　　菊
[illegible]　　良
[illegible]　　子
[illegible]　　水
[illegible]　　菊
[illegible]　　秋
[illegible]　　風
[illegible]　　子
[illegible]　　葉
[illegible]　　菊

[illegible]　　秋
[illegible]　　水
[illegible]　　菊
[illegible]　　紫
[illegible]　　秋
[illegible]　　風
[illegible]　　水
[illegible]　　秋
[illegible]　　良
[illegible]　　菊
[illegible]　　子
[illegible]　　良

枝もく菊の折らるいさよ　紫子
雪の葉ゝ古こそけるる雪の素
潮うかをめくゝ巻けける青　良
初秀ハ花ひの新年安うて　水風
かゝし屏風をくゝ夕景　紫
花千ゝ色ゝ紅かゝうゝ古雅
ゝや強合ゝ色ゝ色ゝ　秋

十ゝ枝ゝ花ゝ菊ゝ雪ゝ　菊
新年の日ゝ　濁子
を色ゝ雑談　盛水

肩の枝ひしゝ　朱の枝　次　依ゝ
尺ゝ色ゝハ五枝ゝ　子
青葉ゝ色ゝ　菊
ゝつきの女房の　水
枝すゝ山伏の数　菊
若色ゝ千ゝ　子
ゝゝの舟ゝ　伝
影の葉ゝ　菊
化粧　梅　子
椒の枝おゝ　水
姉ゝ　馬蒐
ひゝ位ゝ　子

うゝみをてらしやゆゝ敷のかゝ　菊
ゐよりゝ十月をまち花さうし　蕾良
瓜を立るゝ相法の法を物　水
手紙を沸湯のひ人ゝ泊しく　芦
志ゝ手のふれハ凡とかくゝ　菊
指付ぬおたゝ戸を打ゝかこゝ　ゝ
よれハそれゝゝ丁のゝ数　良
文川ゝゝやゝ青の漑を踏ちゝく　涼葉
芭蕉のやゝ一ゝ白ゝを見ゝ　ゝ
秀立ゝ茶の茶を接ゝね　菊
ゐく大ゝゝけ泊くみ　葉
消化ゝ姿似ゝゝ小ゝゝ　ゝ

大原の俳屋里子久しき　菊
数おくゝつゝけハ生と富もし　葉
ゐのみゐとに鮫を　ゝ
初叶丙六里の杉を侍ひ本て　菊
むゝ茶籠のいゝめけゝゝゝ　葉
ゐゝを水鶏の起す初さめし　ゝ
笋ゐゝすゝ為のきてゝの花　菊
を為ゝハ雲母ゝくゝもの山　葉
き風さゝすゝ谷の白布　ゝ

神世月廿三浜川ゝ即興
振ゝ井原ゐゐれしをひす海　菊

強しハやまみ山田する打　野坡
毒医ら樋の小節を抉うねる　孤屋
行さけ山千丈を見る外　利牛
苏物の餅を強さ奴秋の風　坡
ちう木の安さ玉の雫　翁
畑のものを持む舟ゝ寄りけて　牛
星さく天ゝ二十八々　孤
ひゝちゝ八鮒子軍の大ゝし　翁
清音の寒ゝ鉢清をを如　坡
明ゝむ窓拙灯を吹けゝ　孤
肩痛ゝ大ゝ場孤の音茶　牛
上巻の干葉きさむちゝハの衣　坡



ゝ物ぬ日ゝ忘する　翁
紙買の七ゝさゝを祝ゝつ結て　牛
塀ゝ川あゝ五十石ゝ　孤
此畠の隙鬼ゝをする月も　翁
砂ゝぬくゝ此ゝつる青芋　坡
新畑の蓑ゝ岸つく金の上　孤
吹ゝゝれゝる笠ゝゝ曲く　牛
川ゝの帯ゝの水を河ふゝ　坡
雪此のちのゝすむ藪垣　翁
干物をゝ白の寸ゝいゝゝを　牛
塩むゝす鴨の巻ゝ行ゝく　孤
茅用ゝ浮壷を立る京住ひ　翁

又ゆかしきものとしてはまめ煮ふ　坡
やうとうとうと大路なる四つの辻　延
栄華のさまむかしの伝え　生
井うくて侍家合の侍いひ　坡
碧さくさくきさて菊を数多月　菊
風止て秋の野辺さうう　生
鮮の咲るの縄をひいゆる　延
ちうはうとうと茅の物場のいろ　菊
月遠きあうの老の移らいやく　坡
何おとかとかの三月中旬分　延
梅炭の煙をくふ書　生



井焼や新梅の四井の秋　菊
こうして京うとうむ銘　渭子
職おろう絡を延ひろうて　涼葉
形しすむ書の柿の木　菊
うすう自釈手鮮ひうの腥く　子
酒うむ生を尺ぬ翁老方　葉
家家の小村る鉦をうき入　菊
枝の寄ひ訪る住老縄　子
ひうう孤去うれ格のみ紀ひく　葉
塚ハひうひて子ぬ石京　菊
白雲ハ孤手吸箇さけきて　子

和田秩父ともひろ君堂　紫
掛乞の事ハ御ことわりなる　菊
よてよくよくき角の枝折戸　子
出入しして葬の庭れて　紫
松をすきと念佛のしね　菊
宮ハ新いのちうりとのうけ　子
彼岸ハ先ぬくひすの寄　紫
三度ふれ書やて事の法ふれて　菊
白紙つゝ一帖の紙　紫
旅籠や長ゝ角の紙　子
名殘をのをく安藝の屋号　菊
る作ハ尺しく如伯母ゝ帳しく　紫

元来ゝの酒の奥　屋　子
焼立て麻子鮮する芋の角　菊
ものゝまくも朝寝　紫
大寺舞ハ仮能夏子嫁ひて　子
うゝ月て屋の方て夏まる　菊
ゝ紙と粉紙をかめて後ゝ　紫
紫蒸蒸ます床のかゝ蹈　子
四月ますゝ帳を鉢うみて　菊
酒ゝしゝ初の酒の釣　紫
ゝ寸屋の上子ゝれのゝ　子
信の屋ゝこゝ美ものく美　菊
形花子子仏のすゝる屋河　紫

まつ松植るて　秋の雪　子

菊や粉餅のうす白の端　菊

きりてうすくさしそえる大根　野坡

あるがハあをくく橋を掛初て　〃

門子　旅もまた月の名をうれ　菊

をしけるも秋のうの霜のさんさ嘆　〃

此一首ハ聚の俳手貢　坡

七十二ありを悔る脚技計

三々八通り蓋のさし　うけ　菊

涼しさや田の出時よくしく　坡



地とる生計方紀やすむる　菊

墨深千ちのをとのこうん入　坡

千ちう家ある旅の茅　〃

押洗ふ泥の口を嗜ゐて　菊

鉢子鉢紙仕て新すを節　坡

因の中ゝ場をあ石の手師　菊

生千ゝ毛作く月紙ふる　坡

花の角祖父ハ初て成ゝれ　菊

結ゝく栄ゝ月ゝの義本　坡

二居坊ゝ青の詩俗を引ゝし　〃

ゝひ廻るゝのゝゝ圧不　菊

蓋合を松嶽のゝる藪の岸　坡

[illegible]の話をいとむ雲天　菊坡
手[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　菊坡
注て酒のむ[illegible]　菊坡
[illegible]と[illegible]の[illegible]　菊坡
猫ぬす人の魂を[illegible]やる　菊坡
月[illegible]れハ親子不足の[illegible]　菊坡
[illegible]れて家ハ[illegible]心　菊坡
仮[illegible]剪[illegible]　菊坡
仕[illegible]　菊坡
田を[illegible]　菊坡
[illegible]

此中蕉翁不適意句多故不満韵而

終云々

生ふるうちひとつの[illegible]　菊坡
[illegible]ハ[illegible]　菊坡
代[illegible]の仮[illegible]　菊坡
[illegible]風[illegible]桶の[illegible]　菊坡
酢の物を[illegible]ハ[illegible]　菊坡
[illegible]て[illegible]す　水
歌の[illegible]　菊坡
[illegible]　菊坡
香[illegible]の[illegible]　菊坡
[illegible]物の[illegible]　水

麻衣をとりもたせる本首の谷　菊水
中稲の穂ゆれをとゝのる風寒　水
何ふもかゞ雪くゝる海て月凍く　松風
はくゝ迄し雪しの細の秀けき　水風
造りをて村を呼ても古の海　風
うけてをゝられる絶や飛　水
初もの〻さゝふむ青ハ寒らゝく　松風
伊賀後米米と山のうゝ見る　水

いさゝみを磨引ゝ作る河ゝ孔　菊
おのれのゝくゝ枯ゝ多　芋　法圓

有ゝ迄の時の居おくゝ尺をさして　馬莧
三味線さけゝる旅の宵　食　菊
夕月秋寒を迄ゝふて更しける　恵
ふすゝ人ゝゝる秋きゝ　莫
ウ　ゝ　ゝ　ゝ

悟へ入る玄羽折　芦菊
就仁しとられ月の雪うち仕せを豆麩　亜
改たらて餅ハ破うし　芦菊
涼あるとくし嵐うまの風　菊
門の方ハ人稀いたさる　亜
野の雪一むら雨の降通り　芦
蒜うり雑煮を出す塚丸　菊
鳥てふおれおれハ紅うるさ　亜
雪の洞江の山をえまく　芦
入りて松さん〳〵しの竹　菊
仏法寺を印そうけすも　亜



五紅の小袖ハ縞のあうらて　芦
呉洲の系譜を受手もさう　菊
ちゝ孫の二代を左写す　亜
月を眺て瘋癲をきく　芦
物の一雷見ゆる也すき　菊
増て弧る柳のきり形　亜
秋の哀寒し云う旅功者　芦
幸加帳うそつうぬうう　亜
不工俗ゝ也吹山の新三位　菊
四代の谷て寒ゝ寒る　芦

雲やちる笠めいまる阪中さし　松風

刀の柄手　おろる　拭　菊

白うゝし木ゝうゝ　肝ゝあらけて　盛水

秋末てゝうゝ　弱ゝ蓬の　塊　依ゝ

弱ゝハ布ゝを　羽ゝ　蓬の　月　曾良

研ゝて　拵ゝ　紙　の　市　判　菊

白ウ　高ゝ　ゝ　紫の　紀を　ゝ　水

河ゝゝむ　麦ハ　ゝ　ゝの　ゝ　野坡

白櫃の　梢ハ　ゝる　紀　林　て　風

数ゝ　ゝ　ゝて　ゝ　ゝ　を　ゝ　水

蛙　蓬ゝ　物　ゝ　ゝの　ゝ　ゝ　菊

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　良



藪ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　風

出　家ゝ　物　を　や　ゝ　上ゝ　し　坡

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝの　月　良

ゝ　ゝの　ゝ　ゝの　さ　ゝ　し　ゝ　ゝ　依

初　ひハ　蓬　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　坡

堀　の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　執筆

いゝゝみ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　里圃

ゝの　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　菊

大根の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　馬莧

上下　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　秋

所きらに月尺の法の集め陽　佐
荷うちらしと通る次　里

きられし所を樣子を懷しき　共角
長孫もゆる石の陽炎の　石
出代の荷物を手うかさこう　菊

梅うるや通うられハうの声　毛紙
出る孫子こやき　桂嶋る　許六
陽炎や所の朝の生の抜めけて　菊
春風や麦の中通くるの声　木導



陽炎いまれ花は条に　菊
出るや音の鶴うと三ヶ一　利牛
歩うへしやく結るの細かう　盛水
蕨ようを永業の法ちきき粉ち　菊

野に白立圓うち母方にゆうう人
陽炎の歌は白を手よゆふ仏て俳号
を陽うしう古法を考ふ
雛ちうて先生をふのう人と仏
実桂の桜　ちうより　吹　佐圓
実人うの角て来ち戸を仕て　菊

吉野堂の古寺をとゝうて

月やとの琴の木ぬれの二ゝ原　菊

旅人のなれハ折ふしの花　法圓

ちゝそゝ廻　文の枝ゝ寄て　其角

空の松ハ枯てくれハ野さゝ

ゝのもゝ　おれ蒔く麦　秋風

ゝ者を一軒宿て折ゆゝて　孤屋

百しきゝ　大名の供　菊

ゝ子ゝ　子珊

ゝ原ゝ風ゝふゝ　桃隣

栗をかゝ　さて座ゝ　利牛

ものゝふの大和若ゝ　菊

一通ゝ　ゆゝ木ゝ　ゝの言　玄角

亦枕ゝ　詩を織ゝ　舟竹

大ゝ　ゝ古ゝ　の内　菊

物の葉のすゝ　言かゝて　角の色　角

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　竹

元禄七甲戌

梅ゝ　ゝのゝ　ゝのむる山　菊

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　野城

亦夢　ゝ　ゝ

上の句より子のうる米の豆　菊坡

春のうちはうしとを月のやど　〃

殺こし　嘲す秋のさびしき　坡

お所〳〵菊をうゑて遊ぶさ　〃

娘をかしらに人をうゑぬ　菊坡

東京通い同しほうる雨喜ま　坡

ゝ　小雨の降ぬ白　菊坡

鉢ゝ味噌ゝ　ゆる白川岸　坡

ひとゝいひあはせお袋のと　菊坡

ゝ　ゝすゝ尾の物語をおさゝる　坡

菊菊はうゑる名　月　菊坡

初花や奈掛ゝ　尺ゝ　坡



夢をおもふ子居合一的の　菊坡

所宗の法ふと殺して花のうけ　菊坡

門して初さゝ　壬生の　伝

ゝちゝ風ゝ蓑の　ゝ迎ー　菊坡

只乃ゝ　に脇ゝ　ふ　坡

江戸の方角の寿の祝れて　菊坡

ゝちゝゝ　れと雑をうす　坡

方〳〵十夜のうちの隣の　菊坡

桐の木　ゝ　ゝ　ゆゝ　坡

門走めしたゝつて寝ゝ　菊坡

拾ゝ重ゝ　ゝ　坡

和ゝ女房の親ゝ　菊坡

[illegible] 世 [illegible] 人　坡
[illegible] 海 [illegible] 翁
[illegible] 書 [illegible] 坡
[illegible] 本 [illegible]
[illegible] 飽 [illegible] 翁
[illegible] 一 [illegible] 坡
[illegible] 寄 [illegible] 翁
[illegible] 坡
[illegible] 翁

簿の [illegible] 翁



牡丹の [illegible] 千川
[illegible] 涼葉
[illegible] 左衛
[illegible] 川
[illegible] 翁
[illegible] 紅
[illegible] 紫
[illegible] 青山
[illegible] 川
[illegible] 翁
[illegible] 山
[illegible] 紫

すのこもの本をハ先ゑしく　板
巡礼の姿して旅ゐ身のうらゝ　川
見ようゝ見て行ゝ紅葉を　菊
花見んと吉野の奥の路　山
くるゝハ梅手きりる家数　葉
ゆゝ是迄物語の事を忘ぬ　菊
もうゝ見くるゝ木の蔭　此篇
河辺の清流千万をうつるさく　葉
重の彼れて入る小舟　板
さゝ見ゝ積ゝ門をハさゝ来て　筋
旁のうゝ紅ハ自然の山　遠条
萩屋事変の紫ゝかゝるゝて　川

御所の門をくゝく自の秋　紫
人見の費用引ゆゝ菅つゝ　大舟
ゆを印れて笠ゝ笠ゝ　菊
笠もゝゝと今代ゝ　死変　糸
後もゝ雨ゝさゝく蛙の言　家
隨分のかゝゝ矢並をつくるひて　板
火ゝかゝやきし門の孫物　舟
院内ゝ守治門を法の寄　紫
嘲ゝゝれてやゝまむ来ゝ　川
此ゝ八ゝゝゝ言ゝ花のうゝ　菊
雄のせいの見ゝ苗　代　糸

盛りをや藪を小庵の名残り　菊

よく雨月仕る茶　信　子珊

鶴の子の寄せ物　枕風

出船のおろし掛け起し　桃隣

けんとうふ　八楽

揚げ豆腐　菊

仕舞て後ハ又来る　珊

ざくざくと炊き合せ　風

名残惜しの酒　枕隣

ちりさくら　楽

ゆきふりと酒のあつさ　菊

山のうふさる下市の　里　珊

子供の仕ハ旅の喜ばれ　風

四つの角もまるさかり　隣

秋末てもの古れひてゐれ　楽

雲雀の羽の枯ふ　菊

飛ぶしとの花生　珊

ひらひら山かすみ立　風

二月の末ようの波に人庭の取　隣

ぬれし袖をこうまけ　楽

屋の風寒ゐ　菊

去りの花ハ陽のおうつて　珊

此陰も利上人うにいと延し　風

まんやとうの八幡宮の御
社壇の前を過て きり入て
人丸より松くらの谷八引こむ
えらけてて一ハ光秋の色の月
すこと花もあやめ菖蒲の
紫桑の紫とうこと陸奥て
ふうう末ようの人子ようのいる
いそうう一向 指して此道
業をむ自ひ 陽さう し
てのうとさう歩て 珊瑚
の目の玉窓と筆子 えてむ 風
鹿沼宿の茶屋の花うさハ見えて 楽
陽

小舟渡 此の山ふも 桃雪

陽

新麦ハうきとすぬ茶屋 山店
ゆさ山 桜 帳の 出 ゆうう 菊
る 山のさてさ ゆ 牧の 歌子 〃
山五 子 石の 松の 立 山 店
方ふ八 駕 者を 引する 茶の 月 〃
頭の 此 法 絵 おおし 法 菊
茶屋の 法ふ ちれ 茶 絵 〃
ゆうう の子 茶を ゆうう
茶 生ふ 茶を 止する 写 ふう 店
菊

[illegible]のかゆみを[illegible]　菊店

丹波[illegible]　菊

[illegible]　鳥

[illegible]れと利上[illegible]　店

[illegible]と初ひ[illegible]　菊

只[illegible]　店

[illegible]　菊

[illegible]　店

[illegible]　菊

[illegible]　店

[illegible]　菊

物ものさびさせる大根　庶い
花のうてなうちハ雅山をふくらませ
蕎麦の花　菊

多賀城碑と人の思ひやる作合句　菊
苗の寄をとゝのへ　霧川
新風をむかふ冷霞を吹立て　素賀
大きめ閉へ付る生りの　菊
さゝやかな咲花も月の秋　川
ゝ川をてゝこゝる稔るの寄　賀
耕作さるゝとゝゝゝ新田し　菊

豆腐味噌作酒醸造　川
長寿の孫ゝゝ養生ゝゝ　光
命の綱ゝを出生ゝ　菊
地蔵のゝゝを巻ゝむ塊の所　川
養生ゝ荊上て門手屋ける　賀
切麦て切ゝゝゝ歩行あゝ　菊
お旅の宮北海道　川
ゝゝ宮ゝ詣の打ゝゝ　賀
神ゝゝのふくゝる家敷の　菊
咲ゝ二編ゝゝゝ学ゝ人　川
打ゝゝゝる五穀ゝ畑　賀

生流す村のさゝやき月雨　楓竹

青紫吹ちる梅樫す　花　玄来

一枝のむしろ屋敷ぬひて　菊

掬も小庵も玄太紹さ　惟然

有彩す菖の生垣蘭のこゝろ　文草

堤初して八田の中仕　花　支考

紫しハあよ牛蒡の苔うて　東

お齋ハ月うす十五夜ゆら　竹

秋も長ゝ新うゝ家ゝ　然

乃ゝ鴨の水ゝ本ゝ　野明

地ゝて松茶ゝ　考

ゆふ人ゝ　菊

雨色の高ゝ雲ゝ　芋

紡苧ゝ　無

雑ゝ　竹

者ゝ　東

色ゝ　芋

生ゝ　考

川舟の渡ゝ　句

堤ゝ　考

雲ゝ　然

茶ゝ　竹

菜ゝ　考

此頃の上こゝの　東

[illegible] 菊
[illegible] 然
[illegible] 吟
[illegible] 眼 所
[illegible] 来
[illegible] 菊
[illegible] 然
[illegible] 吟
[illegible] 所
[illegible] 来
[illegible] 菊
[illegible] 然

[illegible] 吟

二月廿三日　浪化

[illegible] 玄来
[illegible] 化
[illegible] 来
[illegible] 化
[illegible]

小屋一き蕪の株のうゝ　町　亦
謂分のちよりゝと起る庶菊
梅突を負て立花さやゝ　化
手中を松の内より斜理嵯
伊勢の恢白のいそうき実　亦
上紺の木綿合羽さかな持さ　化
海屋のまさぶ八さうし　化
名月の拵鮭五手すくゝ合　菊
一分てもふふ梨のきれうの　菊
玉味噌の作法ようる秋の風　亦
不見乳寺を学習おすす　亦
友の多の拵い次第を待ゝ朱

点うけてやる　お役の　文　化
世話をうを以て通る船の軽　亦
青田うねりて久之の風　菊
雲めるる原を歩るり水場　亦
鉢仕をさきて立る士う合ふ　亦
月をふふ数の場物を星と尺る　亦
聖夫　桐　八ようと　霧　庵　化
志ゆふ写を踊うもとやりきて　亦
青ゝうゝうゝすゝ青の傍寒　亦
家ゝゝゝ八望ゝゆるゝ　化
みりと多ゝ　ものふ横雲　菊
養ゝうる松ゝ花の咲ゝ見れ　亦

四五人通る俳士宗匠
菊屋河内の名俳の繁古社　菊化
いつもきそふ者の中　東

紫かくれをうけむて瓜の美名　吉来
俳松子惜の時を立る家　浪化
分け荷物を拵の人と嘶しさ　菊
竹とお俳の姿ひとさ　之道
は明れて花のうるる自の入　文草
火のくらしと極て良意　支考
杵にそ芋さひの名雪詩家　惟然

見出さる　野童
物を畑の畠見ますす丹波山　野明
くらしもの家合ハ鰥のとれぬさくら　東
希まけ行燈のさや　子
ちくさ風に敷拵て戸を敲　考
こそくと我く素の紫　然
砂川の淋くふりつ夕自秋　童
家志とれとも牡蠣ふくく　的
百年の花の木ゑけの店屋物　色
業しね徹と函を見くす　東
二月十年　櫂雀　丈青の長　子

獵場のうちよりおもへらく秋の野辺をまもるをおきやう
餌つくりかけて什器をもむすめ
羽子板のまつ一貫銭ほど
僧上しふさく高しぬる
菜小紙の十帖のすんなる
まゆきの秋八幡宮
此身を祈るとて山をうち
鉢うちけの嘆かれけく
角筆つくる神の高のはしら
おくり出る市の小屋掛
此うちの代物をもし新宮て

秀雄
蕉雨
壹
的
芭蕉
東
学
秀
雄



鶴と野かけをもる接拔
お屠の里こいしてハ係くみ
塗ると家よりの物のむし入
花の色はさくらく止ぬ宣迄
なりの一ちるの物

秀雄
学
菊
雄
的

閏五月廿二日貞柳宅発吟

柳骨解に家ハすし和吉来
万引 桜しるる中の稈
村雀里よりるむ物きて
婿うけをしすをお石頃
月ゆるふくむ舟の編

菊
西堂
吉来
文秀
文草

かいてうれて行手四つく　惟然
上をそなへてそうぶ蓋多
手桶を入さお酒の肴　菊
麻も食ハいけのてくそ　東
大工の妻子ゑ鍋をうば　青
休麺のまぶ掛さ唐衣の先　然
仮うをさちて酢拍利をやる　豊
海もいさまず雨の去さしと　芋
麺しやそしる洗足　東
お鮫を焼と軽と南方子　豊
くろうと言ふ樫の木の森　然
月花ちひさ門をかけ入つ　菊



菜おろす吹の上ろ俵板　豊
二階をゆねを付ろ磨去の供　芋
新茶のかさの浮として来ろ　菊
氏口のうつをきりと拍ぬして　豊
近ひをくのれ物の茶碗　東
うすをの一反ん庵ろ海ろ　青
沖おハきんと次の田示　菊
ねひいこの胴を嵐のろすき　豊
陳の物屋物ゆ吹ろ　然
葬礼の法て拝よむそい坊　東
まぬろい祝ておろすきの菊　青
りひろ度て言ゆこ　菊

宮子のきしの田上の庵　芋雪

正月もいまやはさびせなる

拾つけよ来るとしの名代　末

吹雪の行路の跡を埼松魚　然

ひうんをうけてお降さしやく　芋雪

白粉をめれども心地悪い気　青

紅去拵拵の元のもの　末

夕うらや夢手埼をとる文世藻　有

面白をふきく数の二月　菊

ちらしと出潮よりの魚の作を立て　惟然

可の中そうハうれ手人し　野明

一景の弦て海うふうれの自　菊

稲千結蓑ゝ庵の地茶　然

松葉ゝ小信村ハかわれハ　的

かうまゝ人手かう　菊

基石の作きう紙屋の口作て　然

船の跡老子原瓶さしもす　的

まのひうけいひこゝ伝明ふ結　菊

ゝの写子いく度志くう　然

先ゝしゝ川ゝ家ゝの春　的

茅の味ゝ吹さとの稲　菊

自彩ゝ名城の浦ゝ有う　然

夢のたくらみ初瀬の晩鐘　的
花の盛り咲かぬ彩のいくむらさき　菊
去年の春の花の名残り　然
二月堂の田舎役者の筋の通り　的
伊勢社　此年料理先ら　菊
柳の木をすくすくと風の吹きぶり　然
風も強くぬ雲の雲のほくそ　的
侍とうを白の白の白の　露川
きりしすの孤さや鞠の中　如行
秋もくれやいろいろ恋しく　松星
会点の色ぬ雲のむて本の　夷始
拓をを拾ひ文を浮義を　行



木子抱付して　釈く答　紅　川
作ふ吟を立て　如菊　蕉　如
ゐる屋付屋と上　国の　木　星
文の釈と的方きく　笠の　蕉　川
笠ゐうしかかりに　行
後れ蛍八月後の年　て言　蛍　星
此有　赤子　強う　楊　蛍　如
背うゐ花をゐうう思　句　俳　行
ゐうハぬ春をまう　言　桃雪

夕ゐ月和夢と境をとう京雪　菊有

西方をふきくる藪の木芽　翁
ひゝしと淋漑の能を立て　惟然
万の中にハ人もなし　野明
一夏の陣て海ふられの月　翁
鞦韆に蓬屋の内　惟然
松茸や小伝馬ねハ中ゝ　野明
ほゝえゝる生を人ゝ　翁
墓石の清きを新屋の口　惟然
旅の親老て扇瓶さゝむす　野明
まひしいふてハし伝唱ゝ　翁
その写ゝ月　惟然
めきしと川ゝ立ちくる　野明

朱の味ふゝ円墨の絵　翁
月新なるしこの淋漑　惟然
夢の松くゝ淋漑の入　野明
花の鳥ゝ時ぬふるのいくもゝ　翁
太ゝねうゝ牛ものゝ　惟然
淋漑に田屋伝馬の荷出通　野明
伊勢の蛸に料理先ゝ　翁
松の木をすゝくと風の吹ゝ　惟然
尾を張くぬ立ちかくゝ　野明
うとしと枝ゝ君を抱ゝ　翁
豆腐売ゝつ豆腐の月　惟然
美しきお堀廻ゝの家　言素

合羽ひろくつ[illegible]の家　之道
路ふて河渡るを也　屋の家　的
河竜の紋　[illegible]ぬ面影　来
多ふしと多波入ていまを紀　然
松のみちのまに　[illegible]て　的
ふし雅の歴　[illegible]る二人　来
ひきはるる　[illegible]の赤坂　然
手水しきのふの平　[illegible]る　的
多おしるるの　相野る底舳　来
新波なる花の新河まれる本て　然
みそ　[illegible]　柳山　次　的

[illegible]の秋かとて的しの冷物　菊
家をそ[illegible]と巣の根先　出翠
堂ハ[illegible]の[illegible]と入て　川高
古き葉家と反[illegible]　性然
月影の[illegible]る宮の岩　文秀
志ま[illegible]て跡を[illegible]ける梅　菊
物を物梅の[illegible]　翠
山[illegible]石[illegible]を[illegible]　言
紅糖を面橋[illegible]火打鉦　然
書て工夫をし[illegible]四　降　秀
初[illegible]る[illegible]の香　菊

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中略ふるもしてきは駕のうち
絡帯と孫をさしてやうなく
名残の所此を付き居る　菊
四月の頃より雪の降る稲　葉文
とし八いうとうちもり　道
萱蔭八きつと降秋の雨　安
いつ仕てもお詰者上手心　秀
女房と共ちうれぬ先悔し　陸
虎され武士の二番さえも　就
去年筋の袋竹八枝手伐ちう　陸
四方さ四時やさ不二坂雄　文
故の花まんさうのてふいろの雨　菊

風塵と名をを付て居る　安
病ぬ以て詩自ら発る菊生　道
堂ちうく向と やうんうう　就

六月廿一日

秋ちうむらうろのよう四季雪　菊
志ちうを降ちうこの雪　木節
月詩ち秋ふうの大新歩清て　惜然
起ると深千云ちうう繕　支考
降ちうまうまうまうれの一志ちう　若
まのひうふいて粉白工すう　菊
夕坂をくうて味の稽を待　秀

何の家とも見えぬ大きさ然
有りて咲のかをる喧嘩さ翁
うちし雲の中なるひとり翁
佛檀の陰なる月のさしうつ然
梁うつる此蔵る秋風秀
八翁の乳ハてこしに社蔵うつ
舟荷の鶴の財ふるうつ翁
函蓋ハ地位手れの出る雲秀
持ちうする醫者の手尾然
陸うみて函魂ふ奴花の垣苦
之袋統てわする盆の頃冷秀
手乳ちらひまむ仏まて翁

かくよりあるまに紙をふうつ然
行燈の上より赤ろ朝仕き然
夏子茶碗をとうのうと置翁
半蔵ハ四角を面を尺ろ中ろ秀
竹の根をけりまのさし然
ちさしと立の根把を義ひ苦
時とむよ先手さつはをこく秀
立ハ乳立くてこうろ火燈の百翁
至ろまれうる物さうまし苦
契敵て富ろもつはの月歌然
木手十とうに林をしまむ翁
満仏手中鶴志ゆけて皆秀

桶も盥もあらしき籠　無名

枝ぶりをそらせて猫の通ひぢ　秀

そゝり物をかゝめる掃除は　菊

花咲ハ菜摘そしやる素の山

ほゝしの船ろ赤ちの岸　然

松茸やしゝ丸木柴の屋ろ付　菊

秋の夕和ハ家して加ゝ中休　元代

宵の月河原の花を中休に　文秀

そしハきしけハ里のうゝ家　雪芝

四五人て菊ろとゝ伏翁能右吏　徳雄

いきうしゝ弱手籠を重ろる　望聖

そゥ翁の重ハ出ろよ人ハ山ろと　惟然

屋風ゝろんて猫ろ上　卓袋

んて上州米の元さゝ米　代

ろ手の高ろの合さろ　秀

嵐山くふとんの上の音味ろろく　芝

風手ろ重ろ八ろす　雪

いそうしき俳ろ木宗屋　雄

三手ろて嫁ろるの手ろ　菊

雑のろろ人手ろろ　袋

きさろろて仏ゆうつく　萩子

初せの塩手古仲弦地し　然

色さうとゝぬ　角の絵さ　代
はゝくと結ぶ　小雪の枝されて　袋
森り雪へと　豆鼓屋の　秀
手切のちひさん　鳥手角を　入　雄
居風呂の湯のうめか滅ゝ　子
二三本伐れハかんくと　秀
寒宿の燈籠　菊小屋　菊
破られて枕ゝ　弱　雄
花きりゝ　ゝと仕　仙　芝
味噌蔵の青写　つとして　代
木綿を蓋ゝ　仕ゝ　袋
ゝ物ゝ本の物を掲れ　然

かゝるえくけゝ　子
味秋八幡の　れを　菊
伯と　俗とのゝ　翌
呵る　ゝ　芝
芝きり入て　屋
花宿ゝ　秀
まゝの　ゝ　雄
　　代

七月廿八日猿雄亭庵席　猿雄
ゆれて来る　海　菊
野のかゝを　菊
行月和　配力

[illegible]の[illegible]之[illegible]の　敏　望翠
[illegible]と[illegible]を[illegible]取　去芳
きくらいさうに[illegible]　し　卓袋
婚葬のちひさなる[illegible]　菊
名うと地[illegible]と[illegible]る　松　桃
焼食を割てくゆ中の冷くて　翠
おもひ屋てもぬ[illegible]　芳
ぬくろ八角の[illegible]　袋
相手のかまて自[illegible]　木白
紙[illegible]のふ屋の[illegible]を[illegible]　力
角カラやけて[illegible]　姓
ひうけハ山代村の一ツ屋　菊

[illegible]の[illegible]　村の姉の[illegible]　袋
[illegible]て染[illegible]　芳
去[illegible]さ[illegible]　菊
[illegible]刺の川[illegible]の石[illegible]　翠
[illegible]　白
大名の代の長[illegible]　力
命ひの導のおかう血の　姓
一年を代[illegible]　菊
[illegible]の[illegible]　翠
[illegible]大[illegible]華屋　芳
[illegible]の[illegible]　力
第　木[illegible]　菊

千かくのうの花の色を言ふ月
桂の清秋の時代を指て上るなり
きくの岸に佛の筏士
元文年間成すること新し
かたへさいたる軍の家和
耳儒をこうまつる校をあき
行戦の慈なる廣い六尺
大きなる情引のみる花の蕾
米の祖をめしたる二月
白

清ふしと第をもつて校定仆

望翠

牛の[illegible]を和ぶし次
約角を離きを[illegible]へ度を振て
まれハすること豆腐をきる
大八の面をうるる狭小紙
の毛の色を編笠を見て
疲をうるる紙ひくく川おもて
埋中へ生を魂かたやる
際入の赤をうるやれ門まをう
杖とを屋を[illegible]て至
一位年きさをうる[illegible]
髓弱をうかたをの海
大きのをうて四を扇子を

惟然
去芳
雪笠
猛雄
菊
東袋
九節
芝
翠
然
桂
一雨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

踏る蛭子殿きしよる家をか　雪芝
餅搗ふりて尺とるさの船　菊
夕月の光る梢ハ実をもち　古芳
うす柿いろと吹る殿　風麦
身をそゝめ二人連れ互に老　玄角
こゝろ〻に至る雲のゆけかの　岩鮎
蝶蓋を用利のうちに付て　菊
狗し寄き門の船ハ　笠
大木の梢ハ枝のうもむし　麦
叶て麦ゆしてこゝろ信物　芳
山伏てゝ出来て礼祝る　蘿

一男けてもゆかをとる　加
掛物の布袋の鳥手自さて　芝
百の魚手きゝ帰　菊
秋九の雨かゝるゝと川の上　芳
かゝ蔭ハ舟をそ掛し　角
茅流山ハ踏れ菊の咲掛ひ　菊
ゝとする外ゝ吉の形　蘿
永ゝの踏る朱よる切目掛　角
ゆゝれ手ぬ手白のしゝ湾　芝
のれぬやよゝうゝハ来数の吉て　麦
紫樊ゝうけて和ゝうゝ　芳
竜竹の杖のふしよむ光の葉　蘿

しぬ山ぶを　申
ゆうすゝきを尺くゝる　芝
笠のうけて　拾る　掃さ先　菊
雲ゝあれや　月を　詩ゝ人と　芳
群鶴のいそれを　かさる　竹　楊　麦
ぞひきる　詩ゝ　海　はぶゝみて　申
月ひとする　夢ゝ　ぶくわし　蓋　蘆

松風ゝ　新酒を　ますます　秋　支秀
自ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　石　垣　の　上　蔡
河の門　おゝ　ゝ　庵　の　蔵　ゝ　て　菊

ゝて　ハ　俗　衣　の　紙　を　引　す　る　雪　芝
世　ゝ　も　おゝ　わ　し　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　惟　然
こ　の　山　ゝ　て　世　る　ゝ　ゝ　卓　袋
庵　お　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　の　庵　ハ　ま　れ　ゝ　望　翠
床　て　天　も　を　こ　ゝ　て　し　と　荆　秀
ゝ　ひ　す　俳　行　の　俳　を　ま　ま　拙　惟
空　嶋　の　中　を　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　引　の　け　芝
仕　合　と　夫　鶴　の　舟　を　の　ゝ　ん　さ　菊
ゝ　ふ　け　と　餅　の　ゝ　ゝ　れ　る　ゝ　つ　興
ゝ　ま　し　と　注　ゝ　を　簑　ゝ　ま　ま　て　袋
大　立　庵　松　庵　の　帰　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　菊
月　の　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　け　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　秀

白の塗りおけ苔白ゆさやう　芝貨
きハ墓とも草とも同し　新
敷としいふ字をしるしていく秋　秀
自影千又ちりとなる責ゑ仏　翠
かりとも藏主の行ひしやう　桂
咲の花千年毎　嘲子老ちう　然
砌寺をうけて住ませ椽　柳
寺と物の住しめの結る庵　芝
内ふ窓の筆ことる住なれの　秀
老婆の門めさし入ちとるる　桂
一里の舟と後のすむちる　翠
山ハちれ密柑めきの黄千来て　菊

なるれてうちる畑の家　寂　秀
毋方とも紀て有の牠さひし　芝
嵐の籠る　寺　茶　の　中　貨
情雀の蛇をみる話ふ入牧の白　桂
さちれ　ちる　ハ　風ハ　ちもし　芝
小食とハむちひ食ものの　然
ちんとの風千人乱うちる　秀
ちとちとなる古社鄰ちふて　菊
ちうけち話の雲ち　桂
ちの冷ハ　ちる　為　雪　弘　翠
か滅の茶　ちけちとの　菊
濃残をちうてちれハ寺　秀

こぼれて生る籾のもけし　紫
名月の夢の酒さめぬ尾の葉　桂
何ハ次第千生の清やつく　芝
枯もきまふふ〻〻〻

山ふかく明ぬるうちをまつ者
寄書に乱書の葉の陰の概概然
山子門あるるを門の自
然翁
神巣さくけの人のうけ地
多塩光る波のかいるを
尺て通る紀三井ハ花の咲
翁
荷おいるを永ゆ
こちらの又砂子朱かるて
然翁
家多子孫を大るを
翁
拾遺の西咲ハ咲咲ーきを
考
嗜嚢のさくわさきをもぬ
然
大切乱ゆ二月を書ハ陸
翁



書ゆ紀ゆけし中の浪花
考
然
其ゆ行との家都ハゆ乱出家京
翁
裏の寺金ハ近年の他
考
海ゆを者のやまを月尺
然
朱鞍阪を庭の西面
翁
さるさるぬ姫のゆ乱ゆめ
考
霜汗のゆるる乱ゆ約方の菅
然
ゆ紀を清ぶ宇ゆ越ゆ杠の風
翁
大立はゆいの杠くゆゆる
考
米橋ゆゆゆ杠ゆし向ゆし
然
加ゆて市れ中を押ゆ
翁
此所ゆ阪生ハ花の寺ゆて
然

野の中ゝの寺めけめる　考

松茸や新手ちらす山の風　惟然

雨手跡手の寺ゝ秋深　古芳

おもしろく鳴すすを身にて　素雄

すと入人ふむ次の居風哉　菊

大こ小まる寺ゝ豆ほす　芳

ウのさしこみ寺来て帰　然

ゆけば柿を食すゝ稲　菊

至て廻ゝし仔鹿の法師　惟

庭まくふくして古風の茶屋　然

肉食もて来る酒のとれ除　芳

ちまつもゝ又ゝ有ゝ改ける　惟

ゝ雪ハ冷ゝ法華生の雪　菊

ゝ的ゝ雨ゝ雨ゝれて一ゝ　芳

尺すゝ降れ魚蔵の内　然

ゝゝゝはゝ降ゝ九の分　菊

縄を引ゝ聖の上ゝ　惟

行ゝの市ゝ立て寺ゝ出合門

明止亭梅月を尺作る

外ゝゝて分ゝ雪ゝ月尺れ　菊

秋の中ゝに魚荷来ゝ　明止

惟然
西圭
支考
之道
青流
翁
止
然
圭
考
翁
流



芭
止
考
圭
然
翁
流
芭
圭
考
翁
然

ゆるされて家を八月十五夜に和歌を
半造作して詠ずるを
奉るとて計を以ふみを物ら
地よりきめるを待と世間ちかす
惟の時中しうをして一羽鶴
ありのきをみるひを待をけて
船入をなら待を三井の隆
枯さ蕭ちを深山をたく
人しの庵を庵ぬ花蓋
咀のぐらを待をうてり

菊月廿一日 湖江車庵亭

止
堂
毛
流
菊
毛
流
秀
然

秋の野をあるかしらる鳴の虫 菊
月をあけとハ蓋を子を毛 車庵
面の山二をかれ三をふ雷鳴て 湖堂
走うゆる牛のよううこくし 游力
男の為をやんをまと蕚ふ表性 風竹
小袖をもしうる病しる大事 惟然
使やる毛ををとをとをれ 支考
かくてを醫者の尺蕚れをう 菊
牧山を恵しの程きしと 庵
寥て御る弁当の桃 堂
紀よう是公谷うけを蕚うう 力
すきうふくハ妙ハ大をを毛ハ 考

[illegible]の末ぬれハ[illegible]百の板　武
雨音の月のかすき門　麻屋
火くるしく[illegible]菜畑を[illegible]の海　菊
七種やしらハよろこ[illegible]体ふ　力
天[illegible]れ[illegible]の[illegible]の[illegible]　雪
小[illegible]ふ[illegible]秋の書　然

所思

世をやけ人[illegible]秋の[illegible]　菊
世のさ[illegible]の[illegible]　況定
月[illegible]む[illegible]の[illegible]の[illegible]　文彦
ちいさ[illegible]をし[illegible]む　游力

[illegible]を入て[illegible]を
[illegible]ていくみのように[illegible]を
[illegible]の[illegible]きをかく
[illegible]の[illegible]ちる
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]

義也子等の共引次を止て
お側の彩お醫者の見るすさ　壹

園女等

きつ屋の男よりて見る蓑を外し　菊
もうちやすあるをもつて勿用　園女
ひやしと朝の氏名をわすけて　瀧竹
ねすときすまの手ハられり　渭川
小ふすとゆ宿の弱ハ情ひう　支考
教を義てふしの　加　惟然
ウ　ゆ〳〵ふる稲子弘をため見る　洒堂
稲ふさくうう　朝の名代　舎羅

頃こうちよりの盤の乳しるて　何中
夢情のうちハ小屋て火を焚　菊
降ぬる藤る嫁のさ免すし　女
風ふてのむ子稲のすう初
ものれしと月のむうる枝の森　休
教法ひけうる町宮の秋　川
ゆ〳〵れ〳〵ゆ演〳〵面る青氣　考
ひうんのぬくさられてかうる　然
青芝ハ緑すもうち京言の赤　堂
ニ代　財の一　ふも　菊
通ひ物を横ふねハいう　中
志ようす春のくの忠横　休
川

はるしとをうつくしむ雪の葉　麦女
雪のうへ〳〵はかりふる風　秀
紫雲の塔のたゆまぬをを　然
清義は子庭のしゝむし　仲
上云の橋の蓋ゝる川の音　菊
柱間の井を敷のはさつく　女
小かけひは不防を敷〳〵ある宇　麦
行の仕むしのゝ有る草　然
有新を宇て猶自の枝の長さ　仲
枝一本をもの絵さし　中
胜新のゝれてもも神のめされて　菊
ものからゝに振作しうる　川



俳ちきゝる猫のはゝうの短うさ　秀
義如　麦の　積てゝさ多体　女
四のれのはを逢なゝゝもきゝう　麦
杨のさ〳〵木ゝゝ伸り　然

百宮千枝の木戸をいろ〳〵　仲
第をを　枝をゝ咲ふ山ゝ家　菊
陳ゝ〳〵ひと敷の酔ゝれて　信化
動ゝゝまけよゝの者俳麦　宇来
田植と作ゝ　松の　知舟
　　起　菊

業終わりもしらぬのけやけさ　出翠

菊うけゆく袋物の花　菊

いまつかた歌うたうたふる戸はうれ　古芳

さらけ境子のひる高　桑　蕉雄

清多むる海のおそる秋立て　菊

うたれうつ音　秀

又ねむてうつ船なき家の雨　杉

松　風こそ山うゆ中うん　菊

おしや自戸よさけう義の声　雪芝





好きうそうそうぬ松虫　菊

秋風子実れて寿　雪芝

伝てきうけし鶴の絵　風竹

雪うれと新酒の墨をさるて　菊

年歴不詳

松枝子すうひけうるみをか　素

雑おもしろくゆふたてう絵　許六

いとうとう知る整の丁子風を　菊

長以羽折　と四五寸のうち　蕾良

吹きれて鶴ハ鶴の月ようく　千郎

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬のきぬぎぬの添きハ佐く
世のうつりみいきさ佐の手ぶれ い
うぐ毛をみ佐ぶくし吹れて
尾をりうつりみ翁の髭 い
庭の下宝尖てるるをうを
うねめ百玉のお絲のすりき い
ひとうをもをしよむ学庭の内
二町年ぶ西の佐のきこ庵し い



枝の風に豆かう伐 吹
宝ぶ樹ぶ伐ハひう林ぶ
小信ふうハ一つ中ぶ
解の佐ぶ家ぶの風 砧 く い
家意ハ多鐵を持る家ひう
宮国ぶ夢ぶ呼れ意て伐 い
すきを切て運ぶふう
節おふて、庫の入窪の張 い

俊かるしらく椿の樹えく
文科の里の坊をゆきけり
鶯なきれはゆきみ石竹
文あうしえうふるしと物さび
形うきしのかひあくもあれ
弥ふかうく猫の恋白
人しるぬ中を火燵をもれ合
河志のう氣 形指くれ

椿ケ年後の夕走人つ吉
石ふしよ鶯ふ小鮒をよう分て
蝶掃の花々文ふ多
白山の人と中ふう
雑つく人ふ
多ふさふか杉ケ重の陣うう
板をこれふ市の坊ふ
大和後へ入ふれ花墨

松一きの字ハかゝる歟之
きのふゝ尾ハ接の亟ゆゝ

俳諧一葉集附合之部終